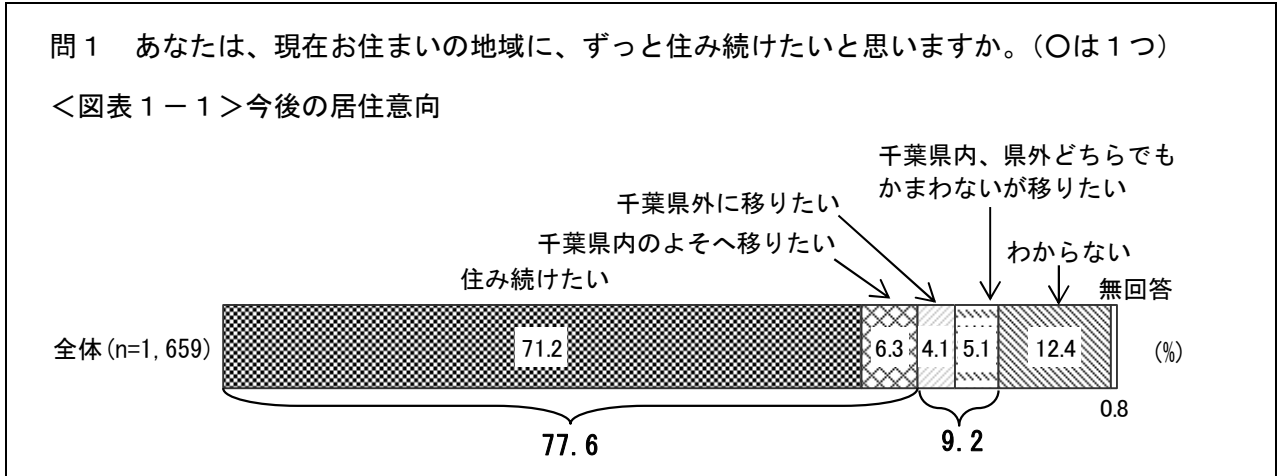


# 調査の結果 調査結果の解説

## 1 環境と生活について

### (1) 今後の居住意向

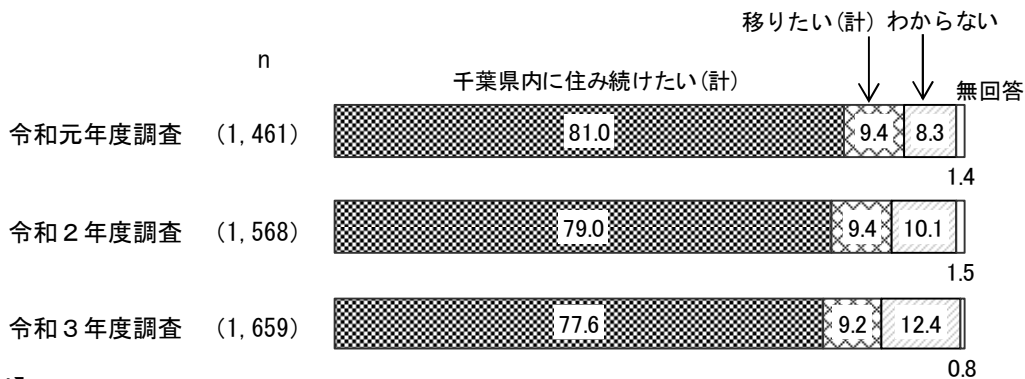
◇『千葉県内に住み続けたい（計）』が約8割



現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(71.2%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(6.3%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(77.6%)が約8割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(4.1%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(5.1%)を合わせた『移りたい(計)』(9.2%)が約1割となっている。(図表1-1)

【参考】令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

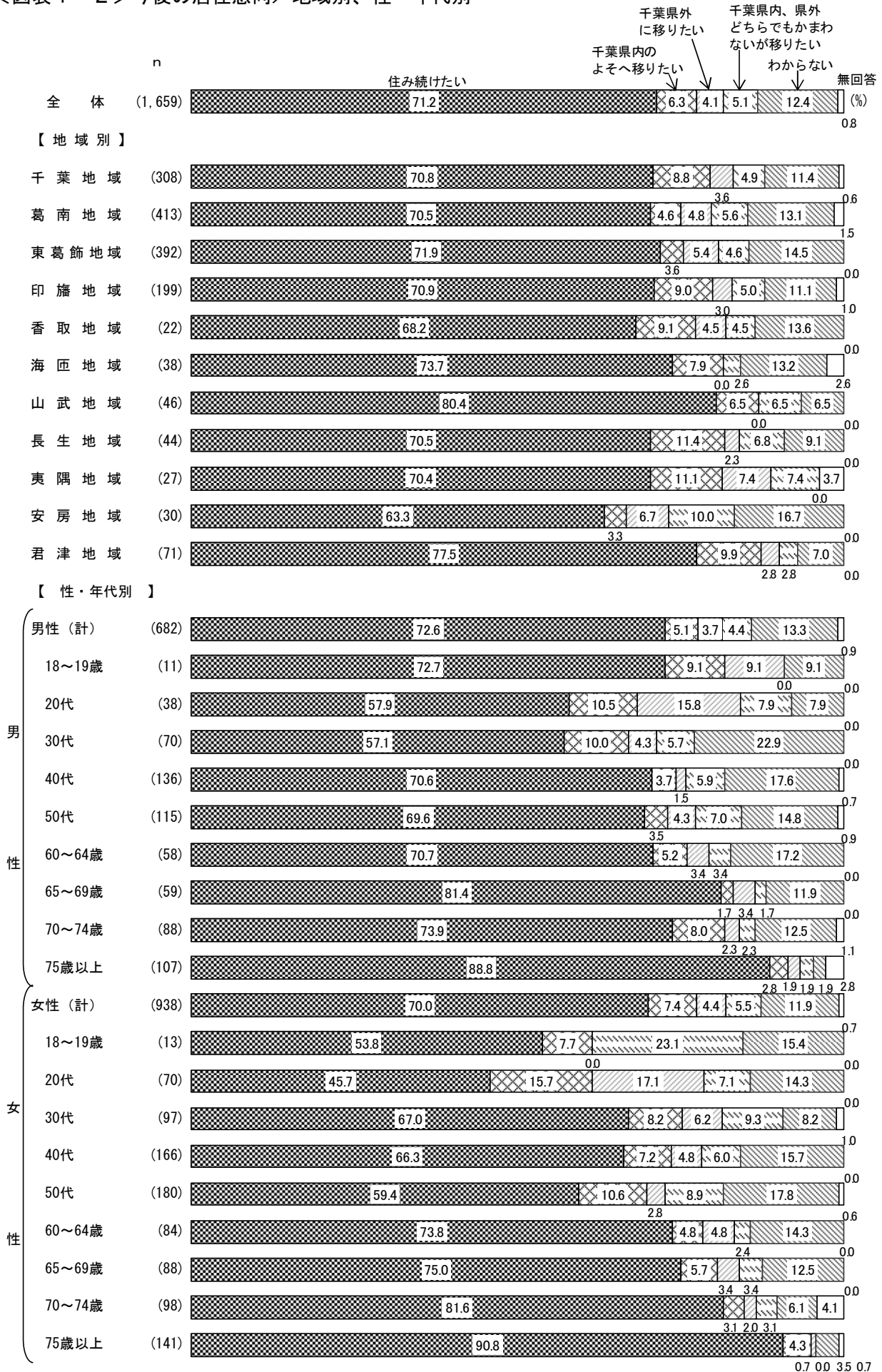
地域別にみると、『千葉県内に住み続けたい(計)』は“君津地域”(87.3%)が約9割で高くなっている。(図表1-2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『千葉県内に住み続けたい(計)』は女性の75歳以上(95.0%)が9割台半ば、男性の75歳以上(91.6%)が9割を超えて高くなっている。

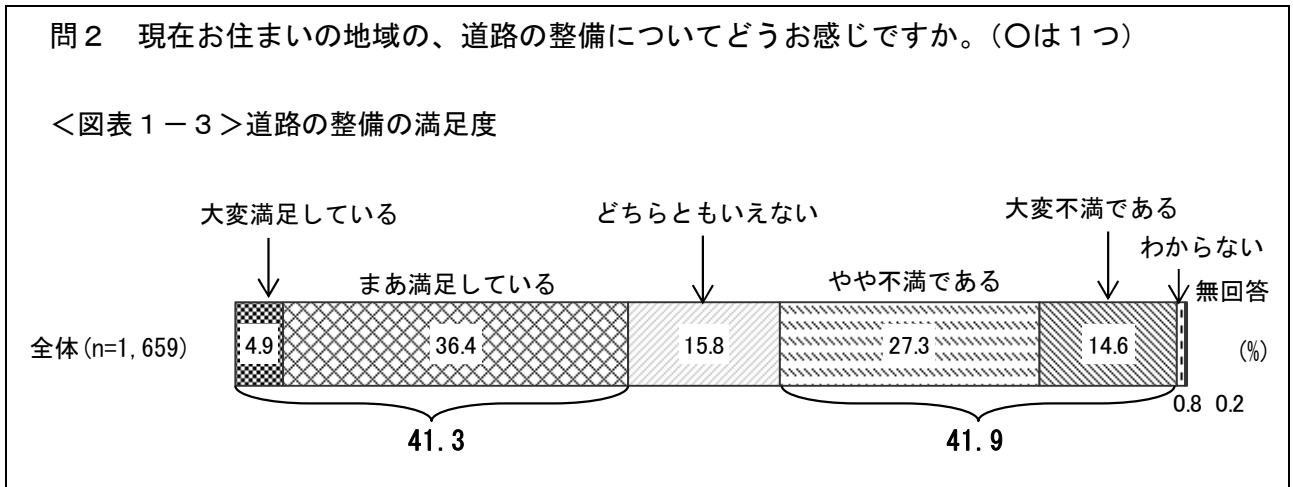
一方、『移りたい(計)』は女性の20代(24.3%)と男性の20代(23.7%)が2割台半ばで高くなっている。(図表1-2)

<図表1-2> 今後の居住意向／地域別、性・年代別



## （2）道路の整備の満足度

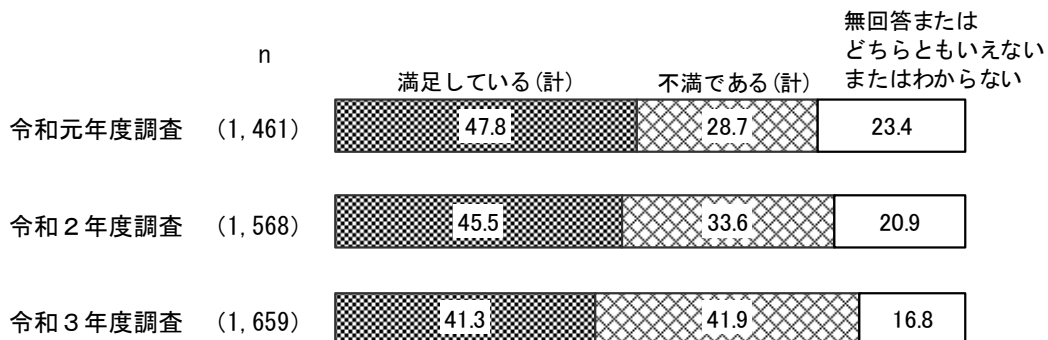
◇『満足している（計）』が4割を超える



現在お住まいの地域の道路の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（4.9%）と「まあ満足している」（36.4%）を合わせた『満足している（計）』（41.3%）が4割を超えている。

一方、「やや不満である」（27.3%）と「大変不満である」（14.6%）を合わせた『不満である（計）』（41.9%）も4割を超えている。（図表1-3）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



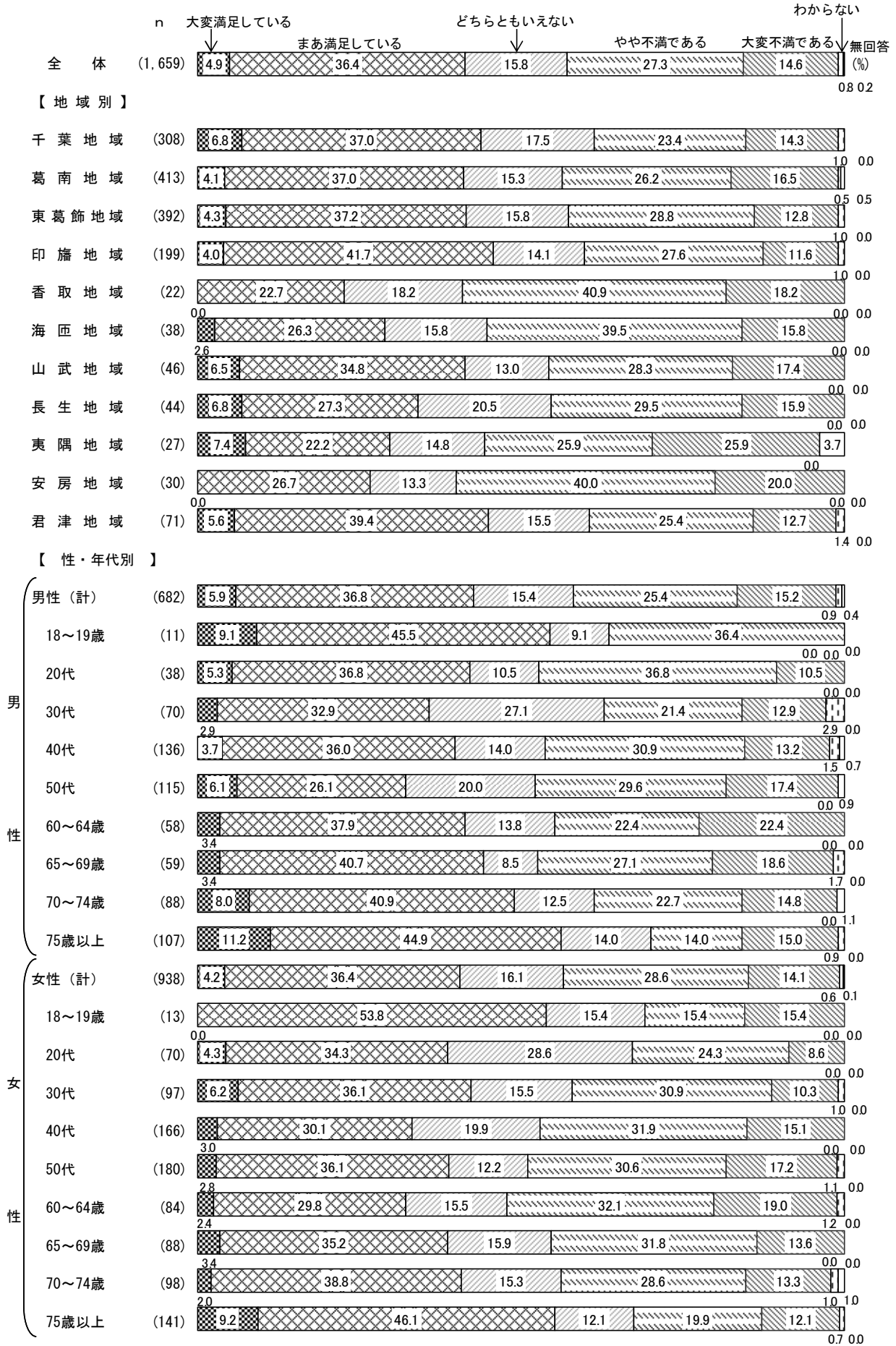
### 【地域別】

地域別にみると、『不満である（計）』は“安房地域”（60.0%）が6割、“香取地域”（59.1%）が約6割、“海匝地域”（55.3%）が5割台半ば、“夷隅地域”（51.9%）が5割を超えて高くなっている。（図表1-4）

### 【性・年代別】

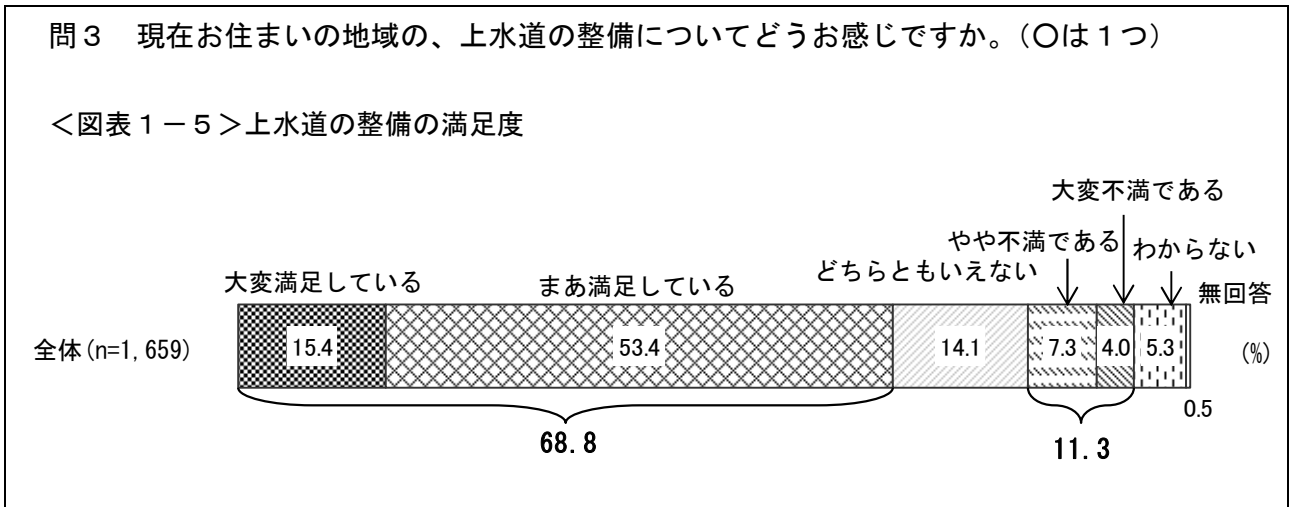
性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（56.1%）と女性の75歳以上（55.3%）が5割台半ばで高くなっている。（図表1-4）

<図表1-4>道路の整備の満足度／地域別、性・年代別



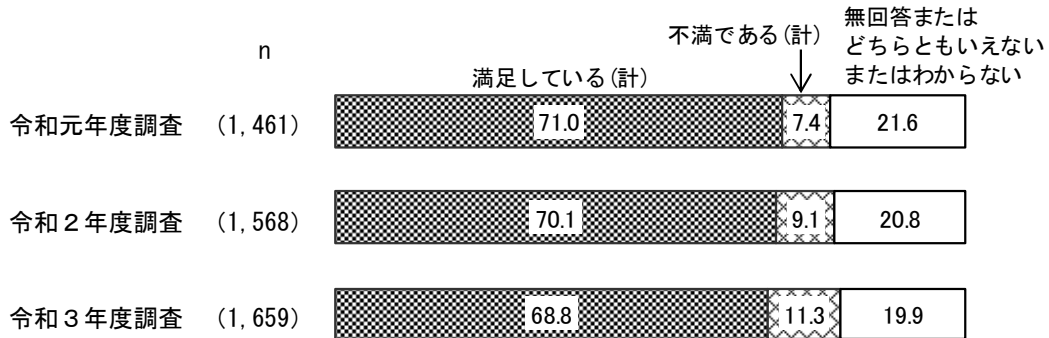
### （3）上水道の整備の満足度

◇『満足している（計）』が約7割



現在お住まいの地域の上水道の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（15.4%）と「まあ満足している」（53.4%）を合わせた『満足している（計）』（68.8%）が約7割となっている。一方、「やや不満である」（7.3%）と「大変不満である」（4.0%）を合わせた『不満である（計）』（11.3%）が1割を超えている。（図表1-5）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



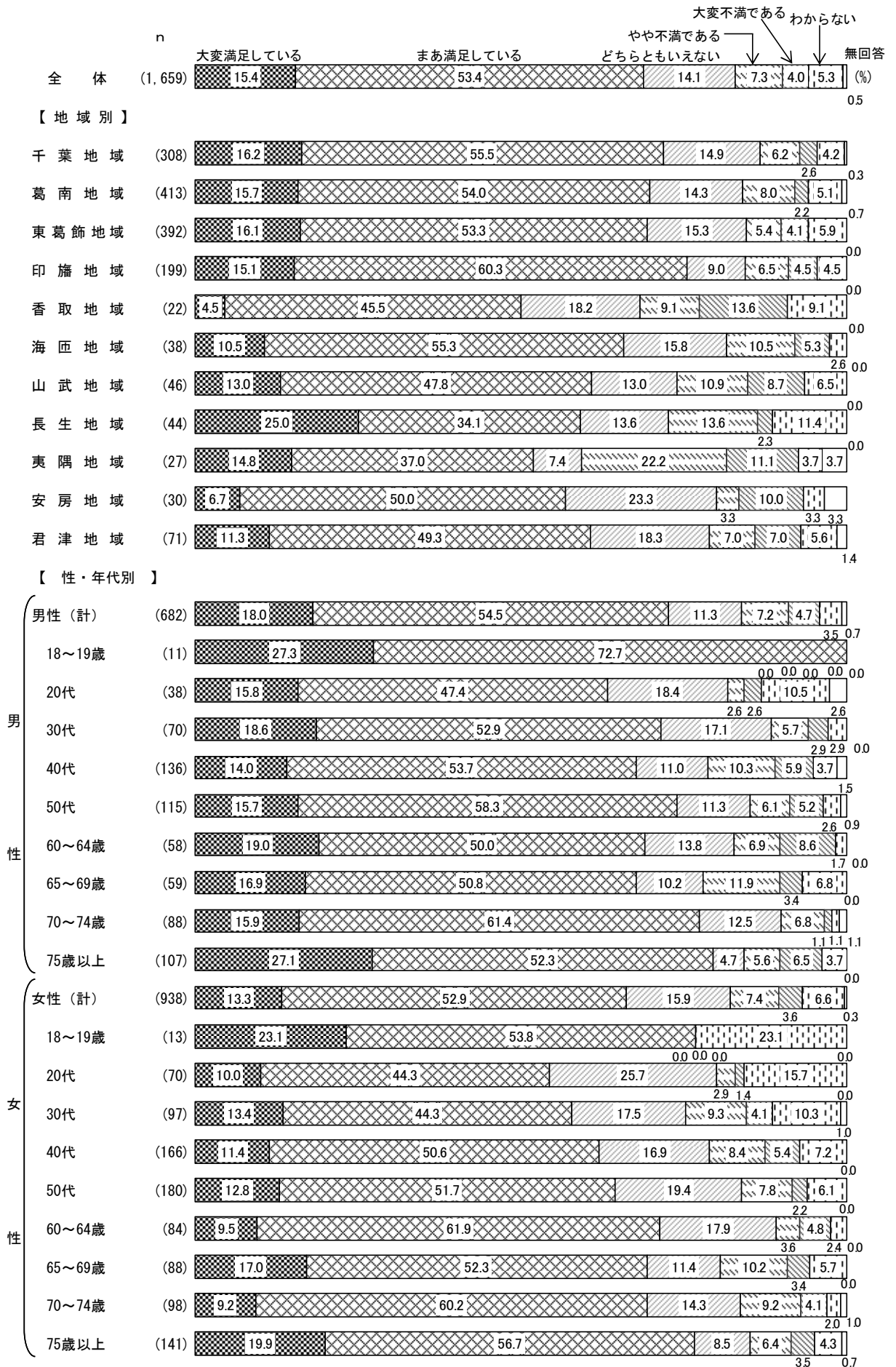
#### 【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“印旛地域”（75.4%）が7割台半ばで高くなっている。（図表1-6）

#### 【性・年代別】

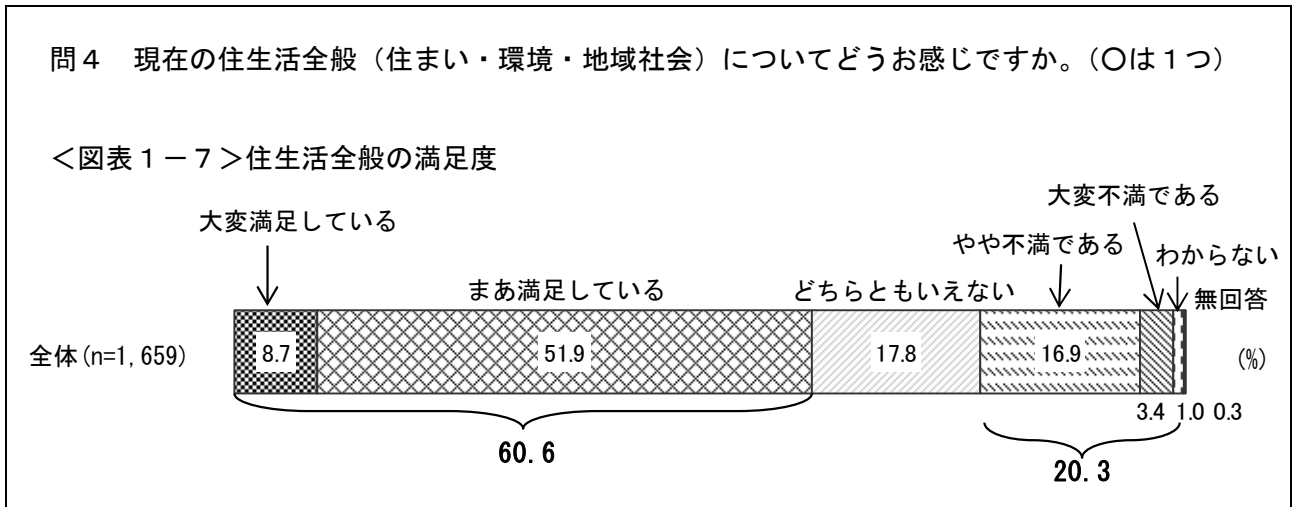
性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（79.4%）が約8割、女性の75歳以上（76.6%）が7割台半ばで高くなっている。（図表1-6）

<図表1-6>上水道の整備の満足度／地域別、性・年代別



（4）住生活全般の満足度

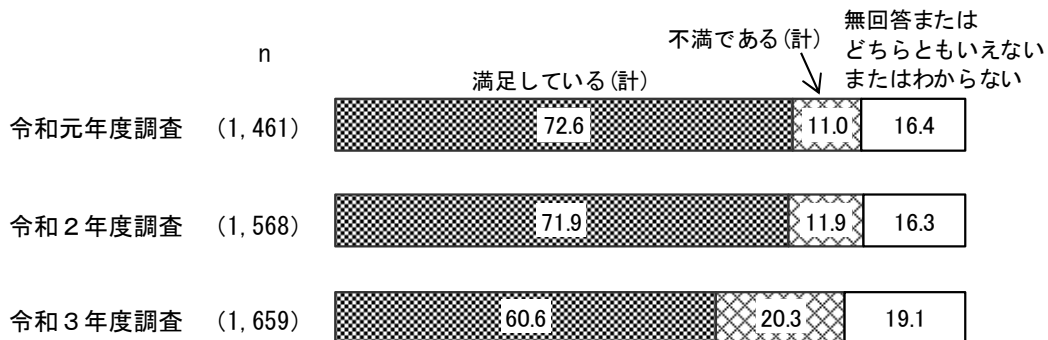
◇『満足している（計）』が6割



現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（8.7%）と「まあ満足している」（51.9%）を合わせた『満足している（計）』（60.6%）が6割となっている。

一方、「やや不満である」（16.9%）と「大変不満である」（3.4%）を合わせた『不満である（計）』（20.3%）が2割となっている。（図表1-7）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“葛南地域”（68.8%）が約7割で高くなっている。一方、『不満である（計）』は“海匠地域”（34.2%）が3割台半ばで高くなっている。

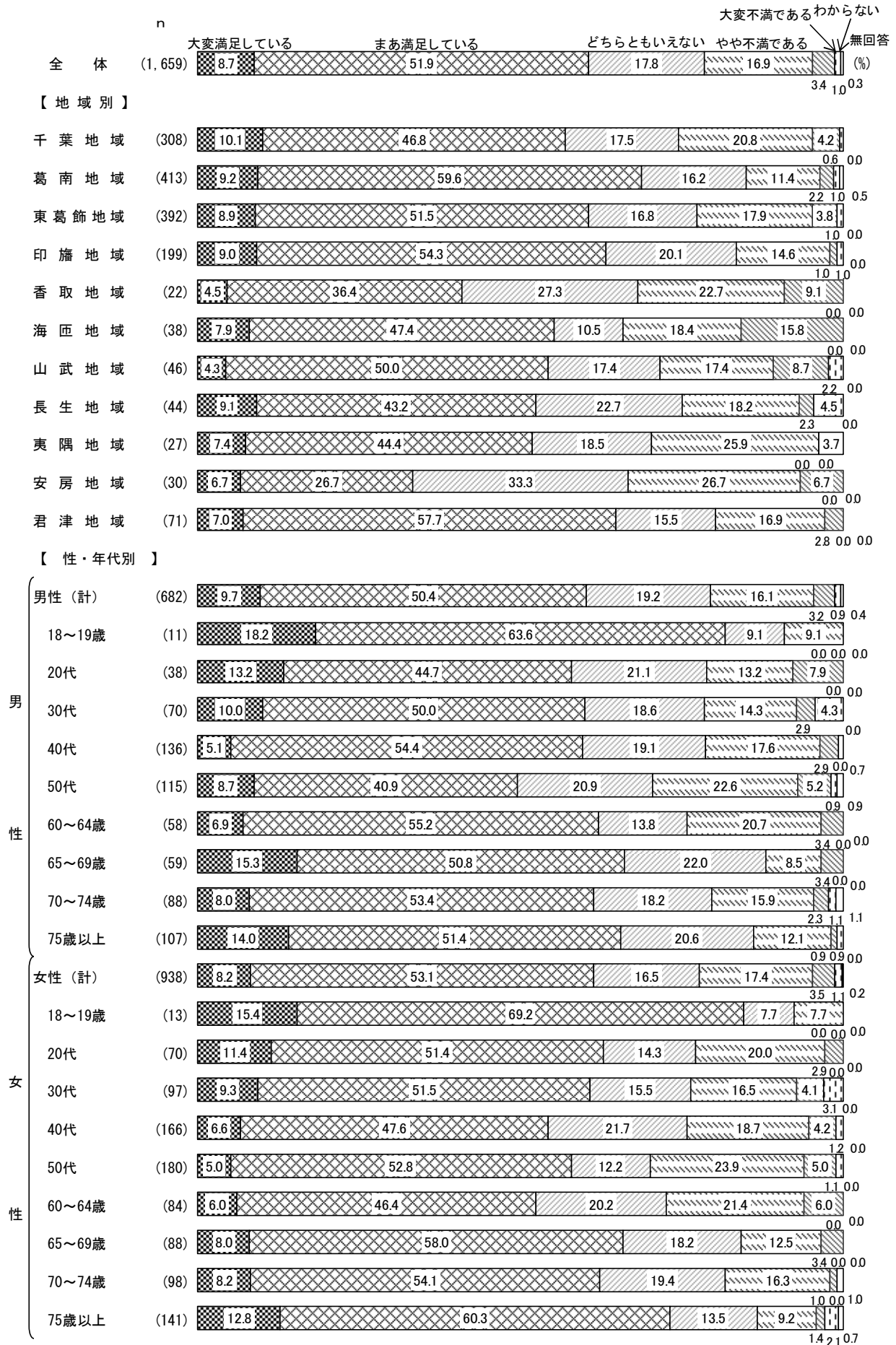
（図表1-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性の75歳以上（73.0%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『不満である（計）』は女性の50代（28.9%）、男性の50代（27.8%）と女性の60～64歳（27.4%）が約3割で高くなっている。（図表1-8）

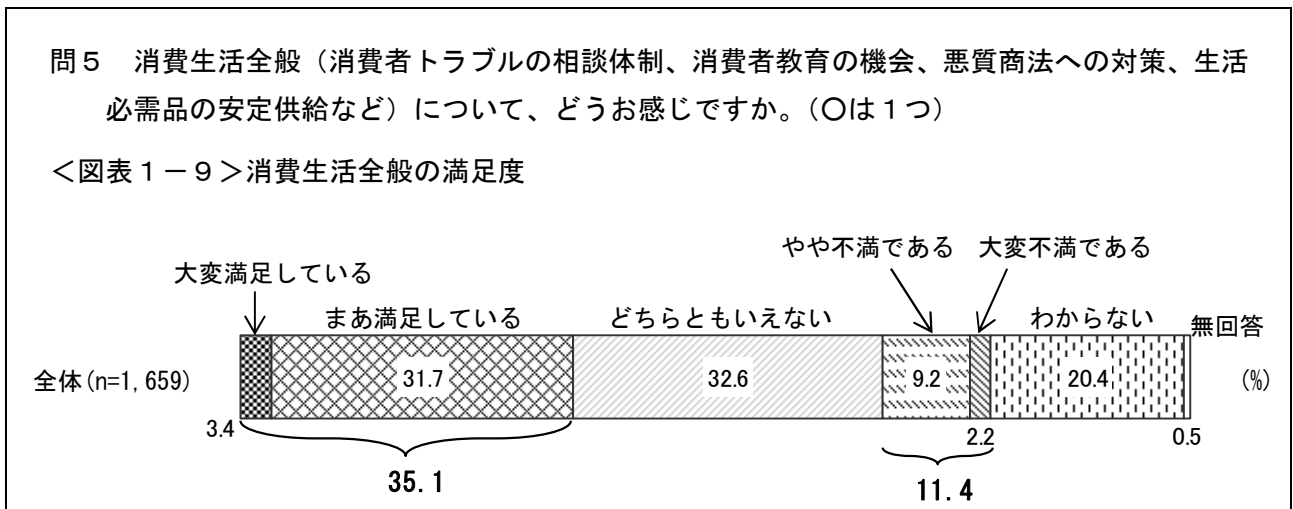
<図表1-8>住生活全般の満足度／地域別、性・年代別





### （5）消費生活全般の満足度

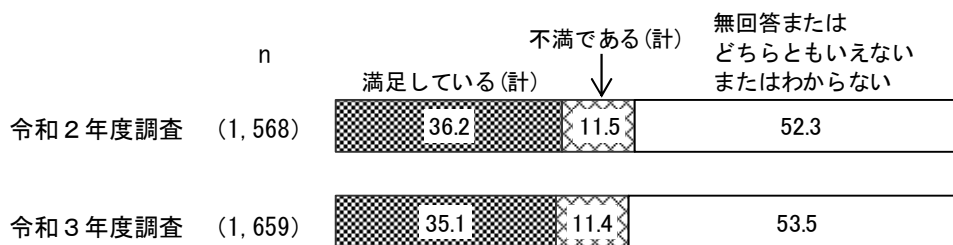
◇『満足している（計）』が3割台半ば



消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（3.4%）と「まあ満足している」（31.7%）を合わせた『満足している（計）』（35.1%）が3割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（9.2%）と「大変不満である」（2.2%）を合わせた『不満である（計）』（11.4%）が1割を超えている。（図表1-9）

〔参考〕令和2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

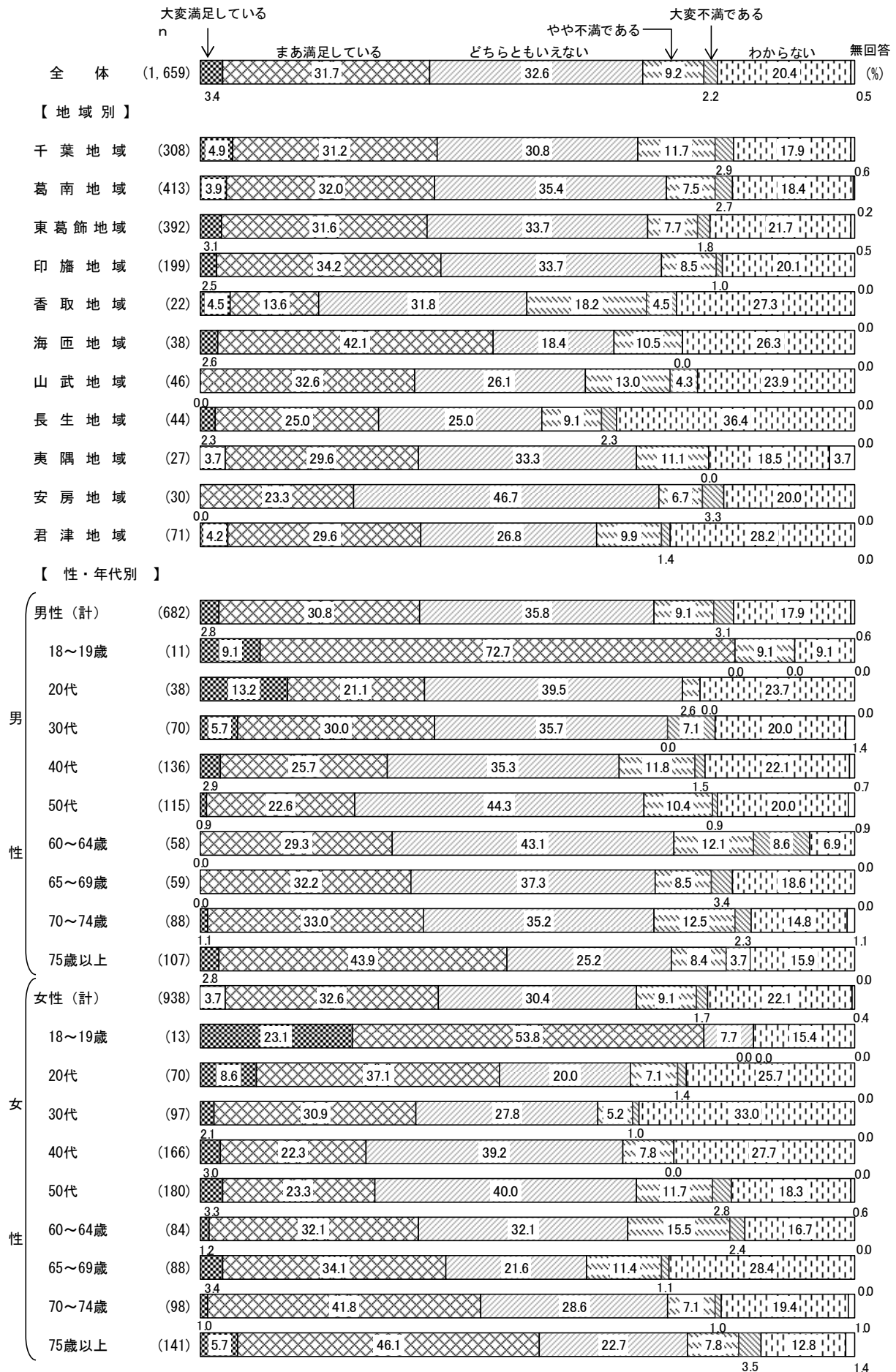
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-10）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性の75歳以上（51.8%）が5割を超え、男性の75歳以上（46.7%）が4割台半ばで高くなっている。

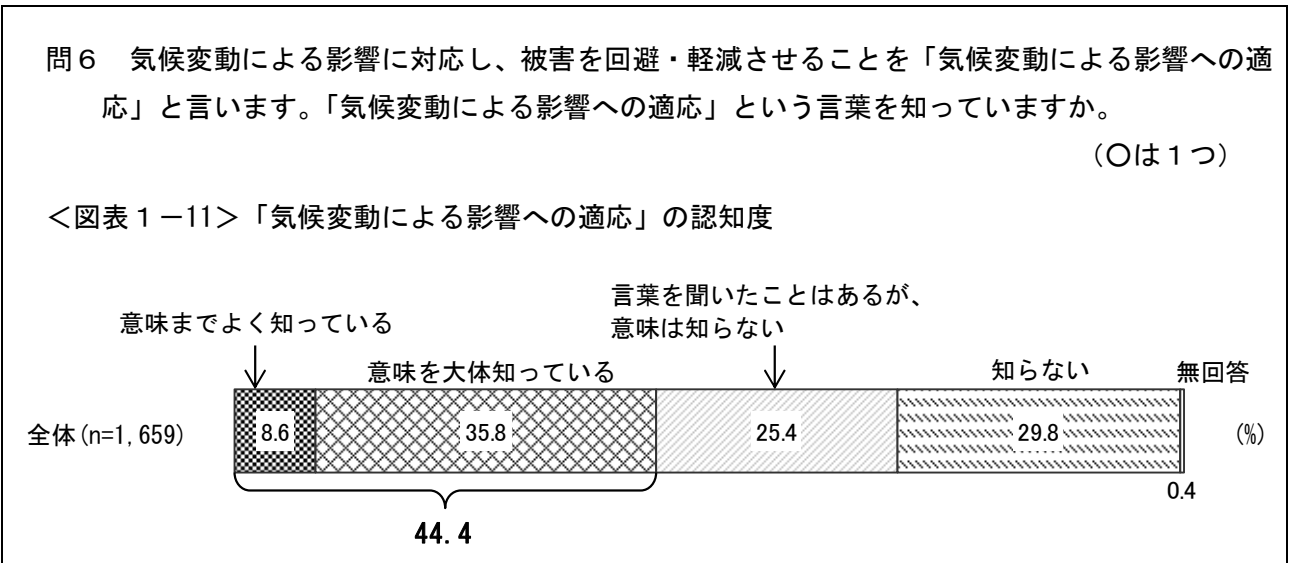
一方、『不満である（計）』は男性の60～64歳（20.7%）が2割で高くなっている。（図表1-10）

<図表1-10>消費生活全般の満足度／地域別、性・年代別



（6）「気候変動による影響への適応」の認知度

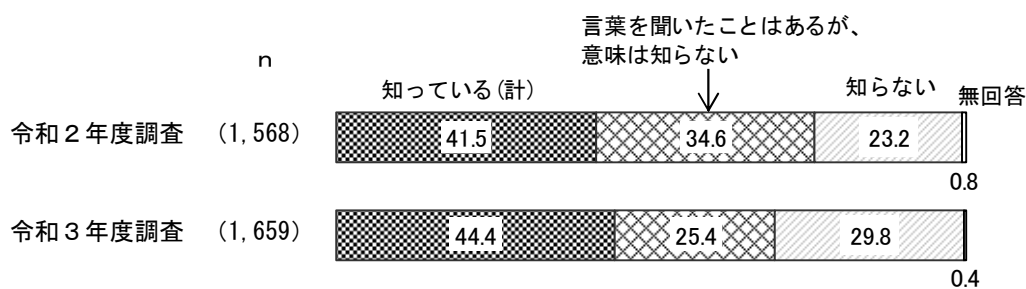
◇『意味を知っている（計）』が4割台半ば



「気候変動による影響への適応」について、その認知度を聞いたところ、「意味までよく知っている」(8.6%)と「意味を大体知っている」(35.8%)を合わせた『意味を知っている(計)』(44.4%)が4割台半ばとなっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(25.4%)は2割台半ば、「知らない」(29.8%)は約3割となっている。(図表1-11)

【参考】令和2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

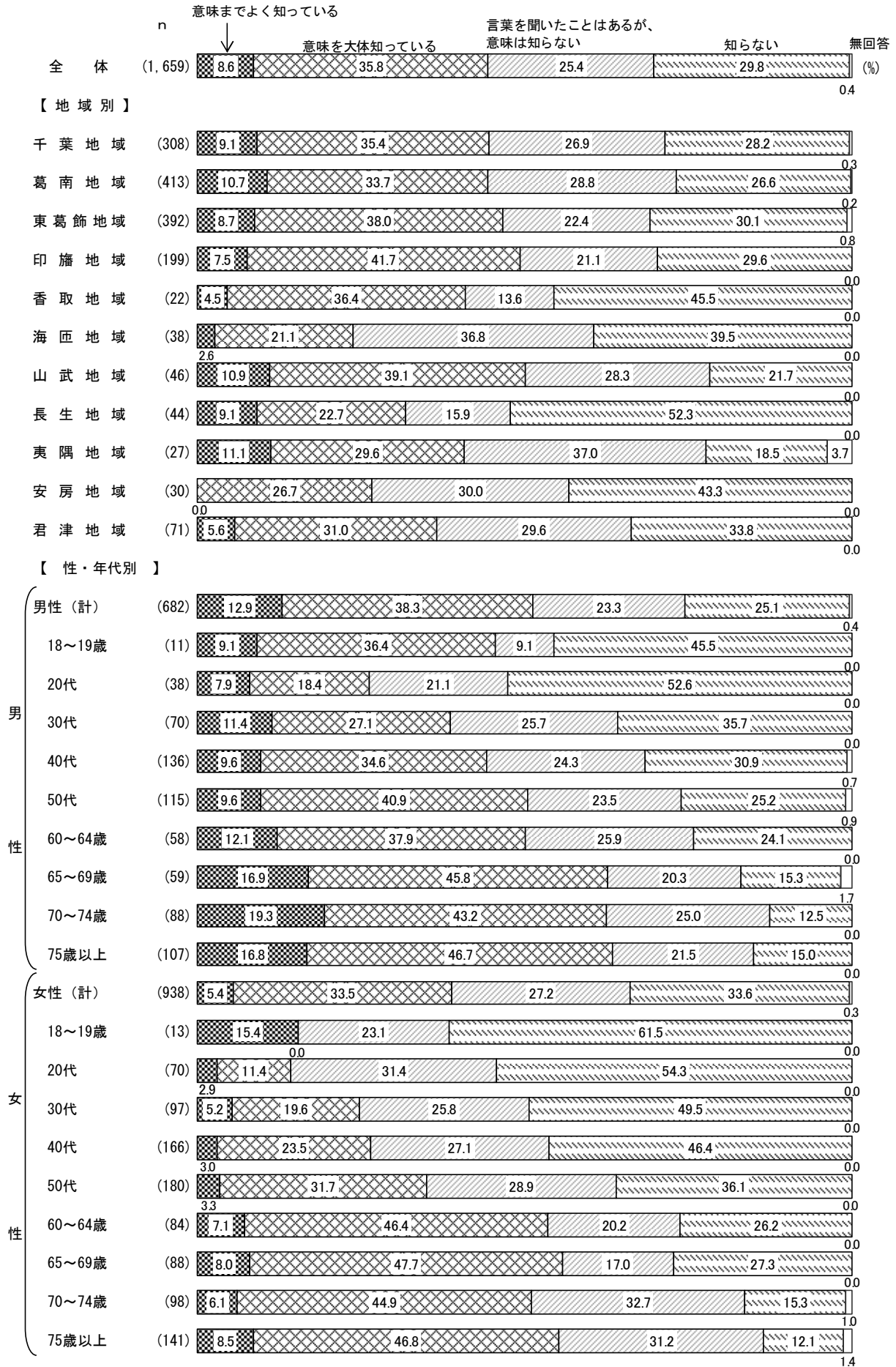
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表1-12)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている(計)』は男性の75歳以上(63.6%)が6割台半ば、男性の65~69歳(62.7%)と70~74歳(62.5%)が6割を超え、女性の65~69歳(55.7%)と75歳以上(55.3%)が5割台半ばで高くなっている。

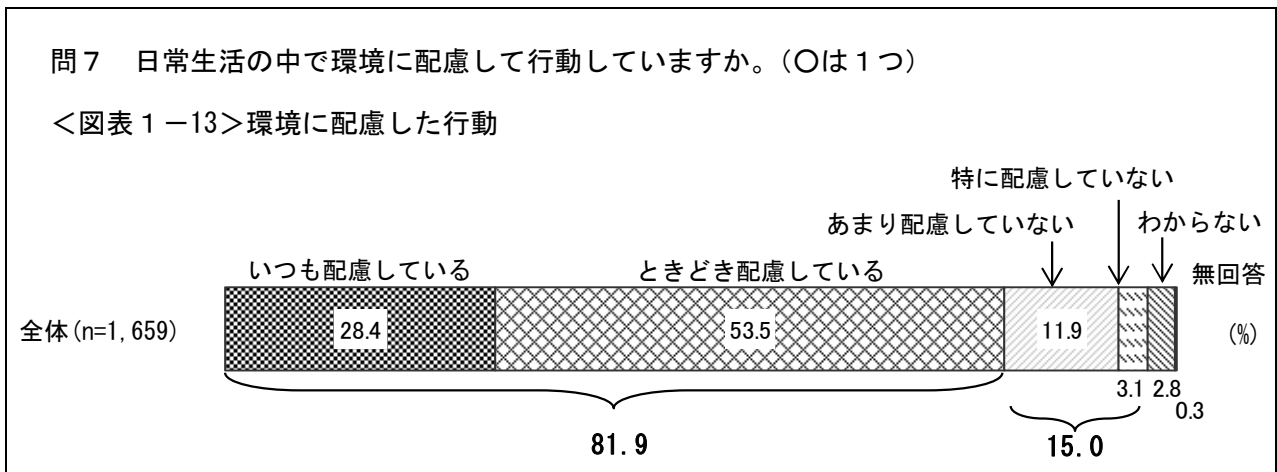
一方、「知らない」は女性の20代(54.3%)が5割台半ば、男性の20代(52.6%)が5割を超え、女性の30代(49.5%)が約5割、女性の40代(46.4%)が4割台半ばで高くなっている。(図表1-12)

<図表1-12> 「気候変動による影響への適応」の認知度／地域別、性・年代別



（7）環境に配慮した行動

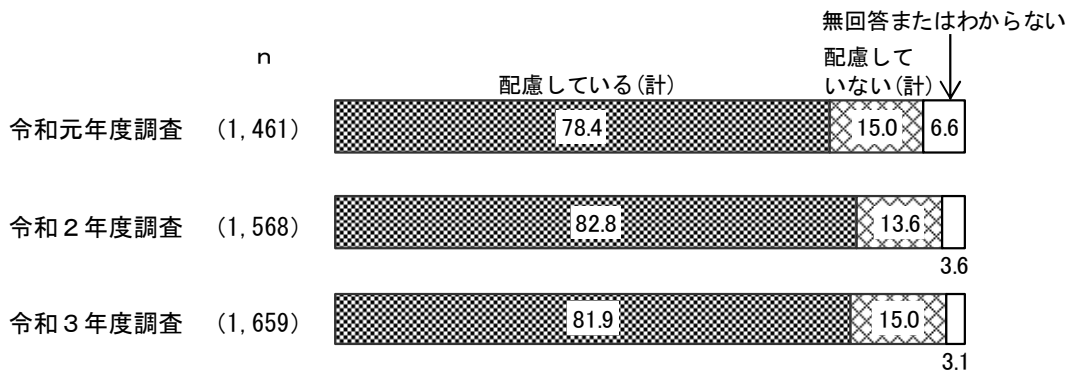
◇『配慮している（計）』が8割を超える



日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」（28.4%）と「ときどき配慮している」（53.5%）を合わせた『配慮している（計）』（81.9%）が8割を超えている。

一方、「あまり配慮していない」（11.9%）と「特に配慮していない」（3.1%）を合わせた『配慮していない（計）』（15.0%）が1割台半ばとなっている。（図表1-13）

【参考】令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



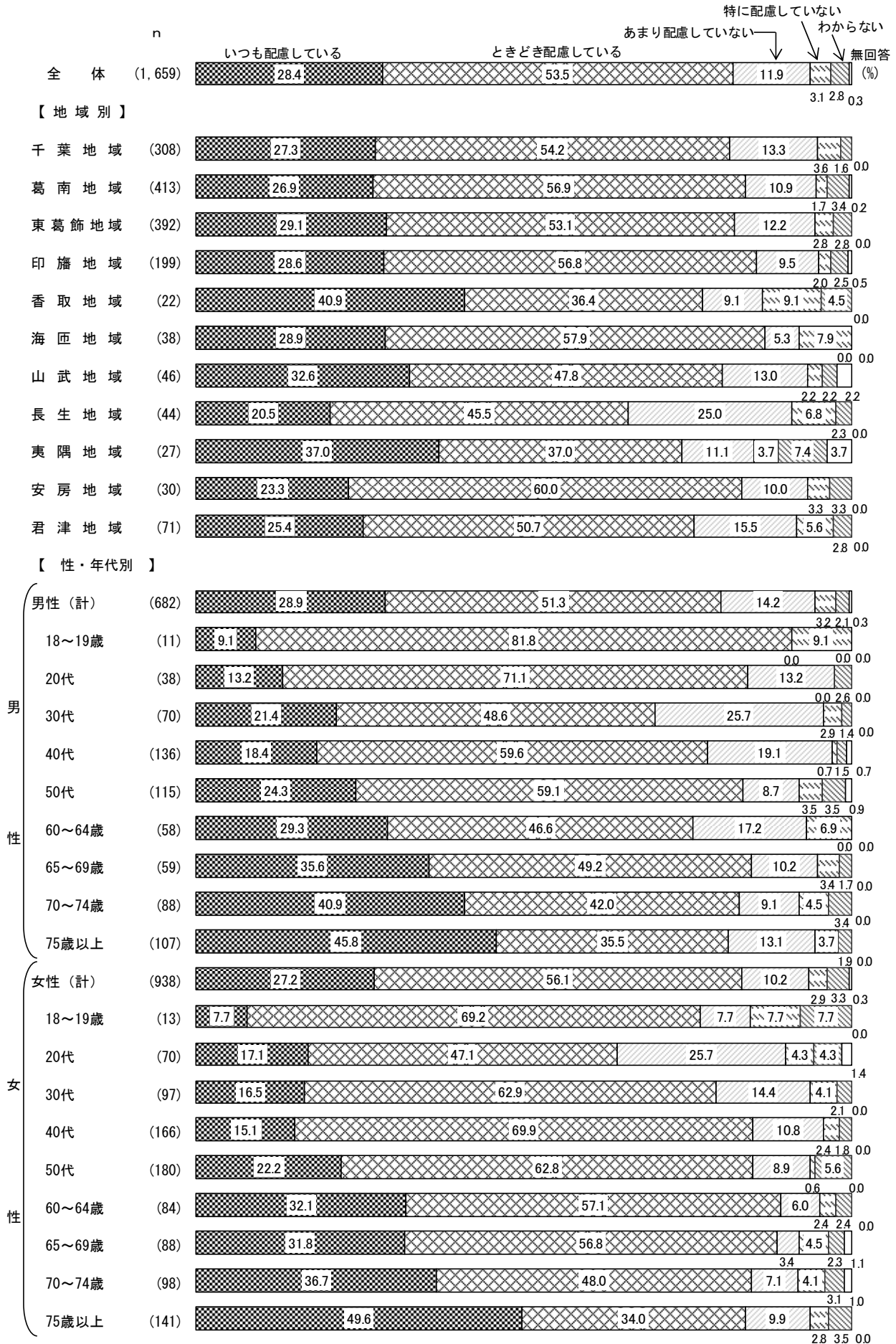
【地域別】

地域別にみると、『配慮していない（計）』は“長生地域”（31.8%）が3割を超えて高くなっている。（図表1-14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『配慮していない（計）』は女性の20代（30.0%）が3割、男性の30代（28.6%）が約3割で高くなっている。（図表1-14）

<図表1-14>環境に配慮した行動／地域別、性・年代別



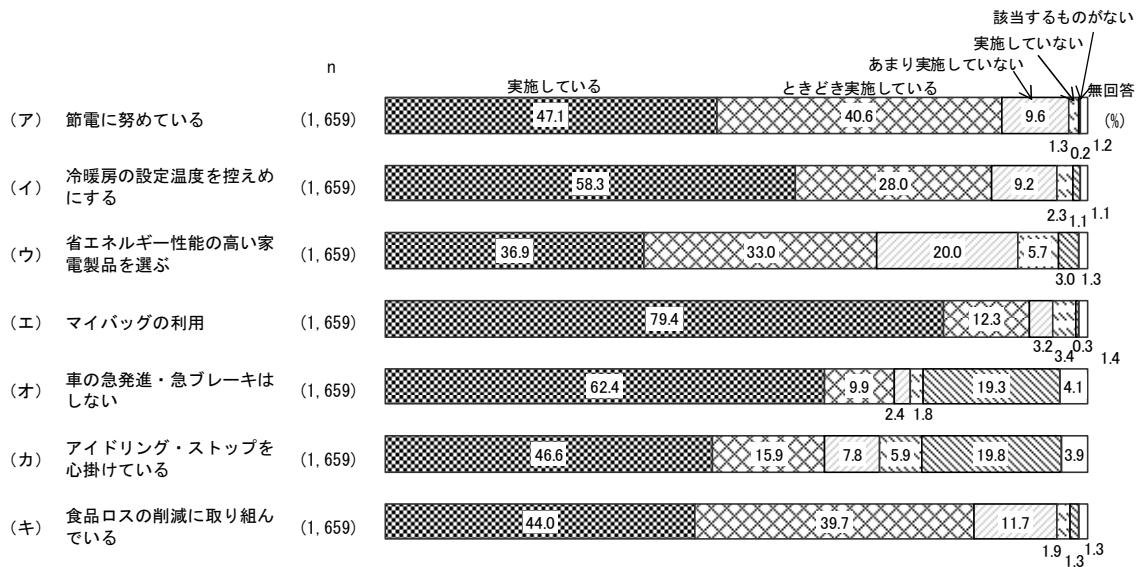
（8）普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

◇『実施している（計）』が最も高いのは〈マイバッグの利用〉で9割を超える

問8 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

＜図表1-15＞普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

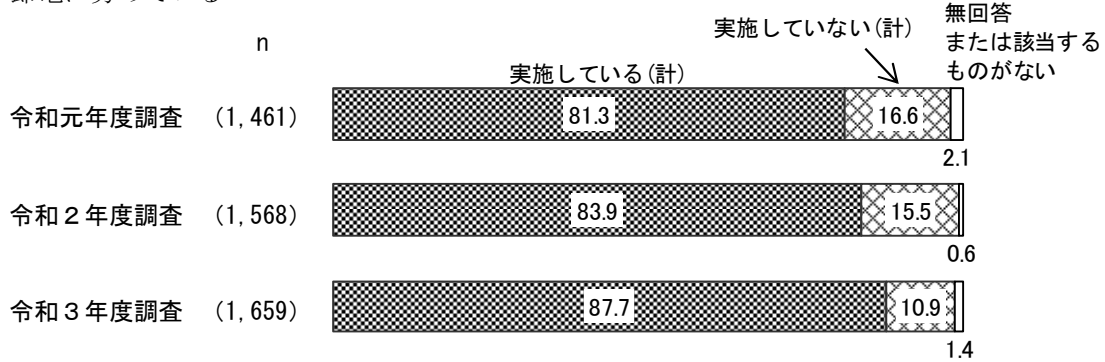


普段の生活で行っている環境保全の取組に関する7つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している（計）』が最も高いのは、「(エ) マイバッグの利用」(91.7%)で9割を超え、以下、「(ア) 節電に努めている」(87.7%)が約9割、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(86.3%)と「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」(83.7%)が8割台半ばで続く。

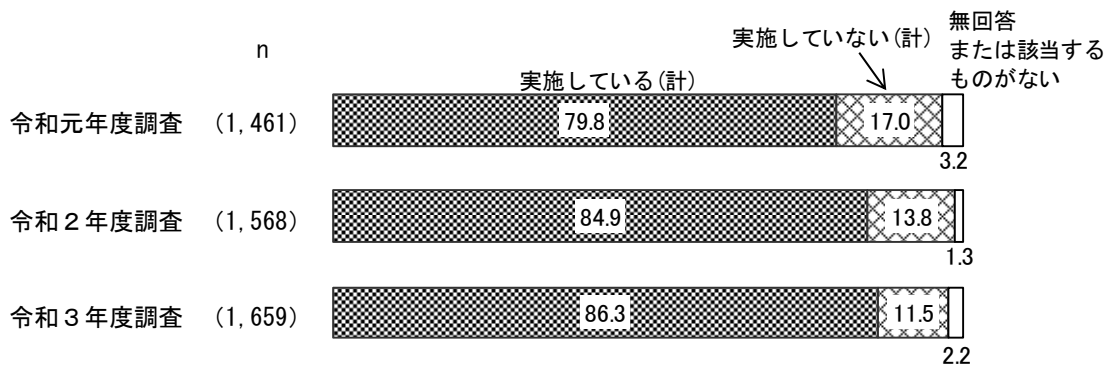
一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(25.7%)で2割台半ばとなっており、以下、「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」(13.7%)と「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」(13.6%)が1割台半ばで続く。(図表1-15)

[参考]令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

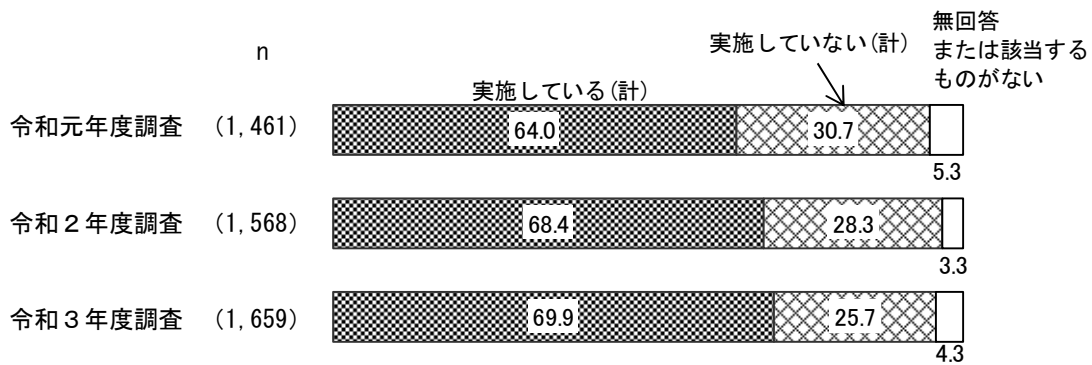
(ア) 節電に努めている



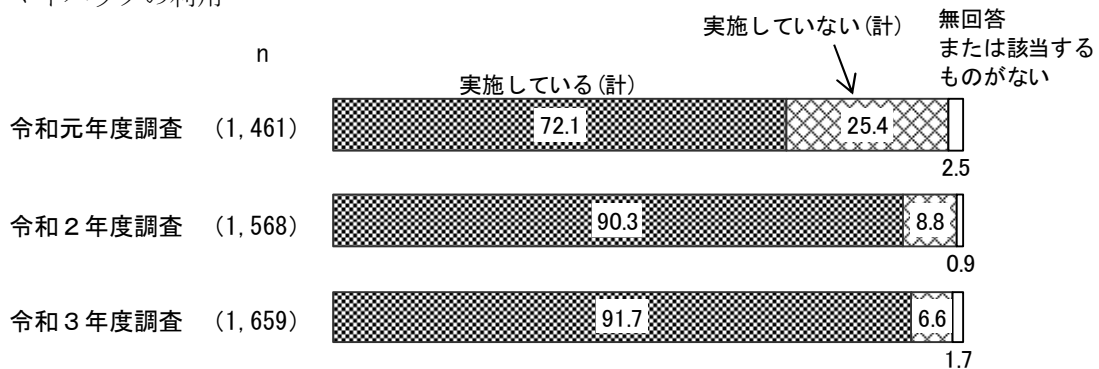
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ



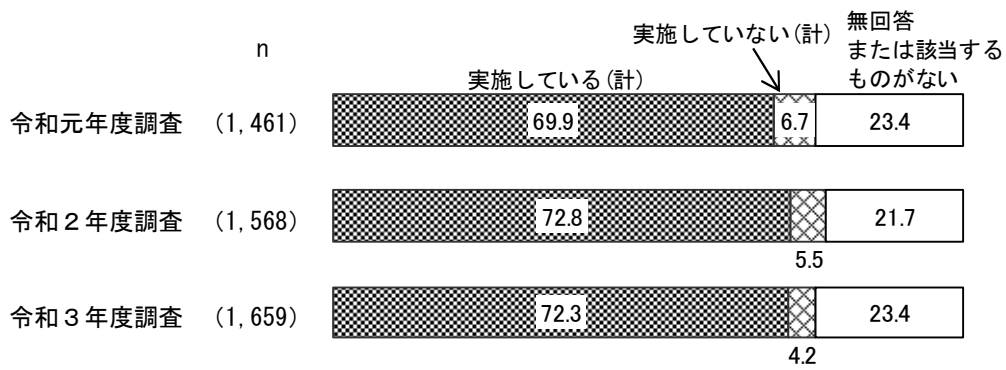
(エ) マイバッグの利用



※令和元年度・2年度調査で「レジ袋をもらわない」の項目結果を参考に示した。

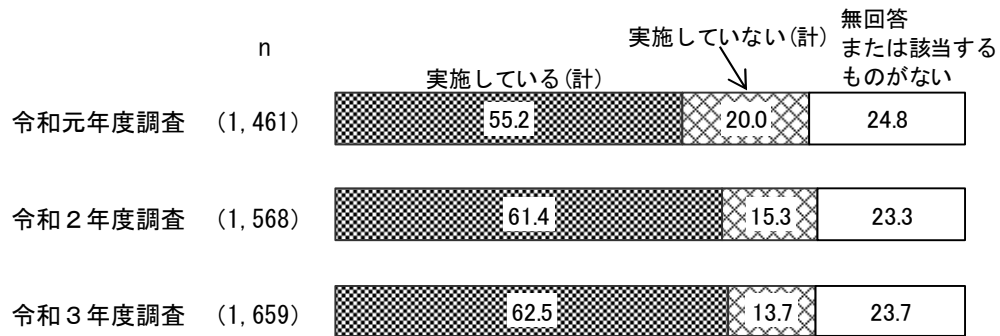


(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない



※令和元年度・2年度調査で「車の急発進・急加速はしない」の項目結果を参考に示した。

(カ) アイドリング・ストップを心掛けている



※「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」は今回調査からの新規項目

### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施していない(計)』は“海匠地域”(21.1%)が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している(計)』は“海匠地域”(97.4%)が約10割で高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している(計)』は“印旛地域”(76.4%)が7割台半ばで高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している(計)』は“香取地域”(90.9%)が9割、“君津地域”(87.3%)が約9割、“海匠地域”(86.8%)が8割台半ば、“印旛地域”(79.9%)が約8割で高くなっている。

「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」の『実施している(計)』は“夷隅地域”(85.2%)が8割台半ば、“香取地域”(81.8%)が8割を超え、“山武地域”(78.3%)が約8割、“印旛地域”(71.9%)が7割を超えて高くなっている。

「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施している(計)』は“山武地域”(95.7%)が9割台半ばで高くなっている。(図表1-16)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施している(計)』は女性の65～69歳(96.6%)が9割台半ば、女性の50代(92.8%)が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の20代(23.7%)が2割台半ば、男性の30代と女性の20代(18.6%)が約2割で高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している(計)』は女性の65～69歳(94.3%)が9割台半ば、女性の50代(92.8%)が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は女性の20代(24.3%)が2割台半ば、男性の30代(21.4%)が2割を超え、男性の40代(18.4%)が約2割で高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している(計)』は男性の65～69歳(84.7%)が8割台半ば、女性の65～69歳(80.7%)が8割、女性の60～64歳(79.8%)が約8割で高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は女性の20代(51.4%)が5割を超え、男性の20代(47.4%)が約5割、男女の30代(37.1%)が約4割で高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している(計)』は女性の60～64歳(100.0%)が10割、女性の30代(99.0%)と50代(97.8%)が約10割、女性の40代(96.4%)9割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の30代(20.0%)が2割、男性の20代(15.8%)と65～69歳(15.3%)が1割台半ば、男性の60～64歳(13.8%)が1割台半ば、男性の40代(12.5%)と50代(11.3%)が1割を超えて高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している(計)』は男性の50代(88.7%)が約9割、男性の60～64歳(86.2%)、40代(84.6%)と70～74歳(84.1%)が8割台半ば、女性の50代(82.2%)が8割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の30代(10.0%)が1割で高くなっている。

「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」の『実施している(計)』は男性の70～74歳(72.7%)

と女性の50代（72.2%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の40代（29.4%）と30代（27.1%）が約3割、男性の50代（23.5%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-16）

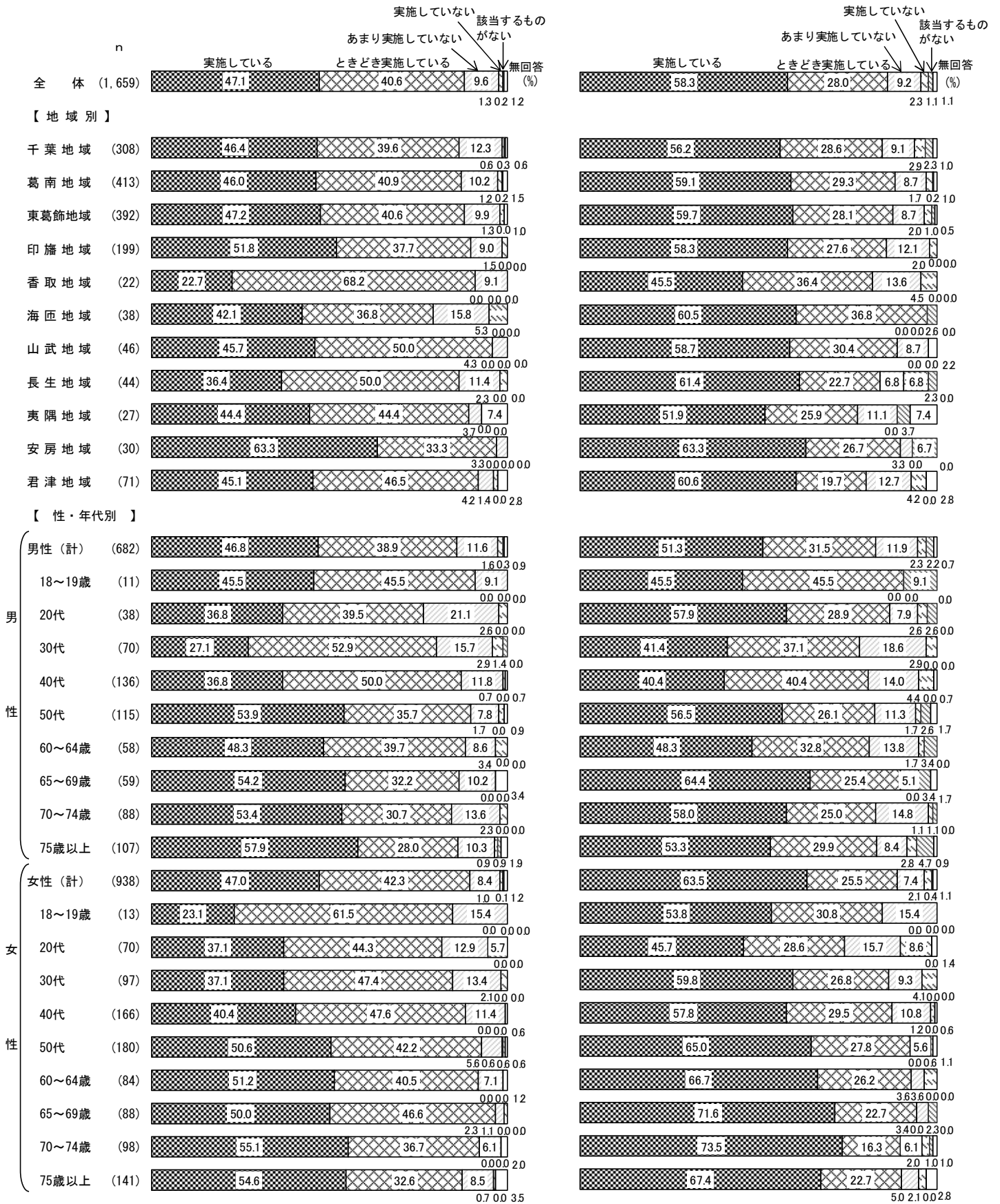
「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施している（計）』は女性の65～69歳（95.5%）が9割台半ば、男性の65～69歳（93.2%）が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の40代（23.5%）が2割台半ば、男性の30代（22.9%）が2割を超えて高くなっている。（図表1-16）

＜図表1-16＞ 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況／地域別、性・年代別

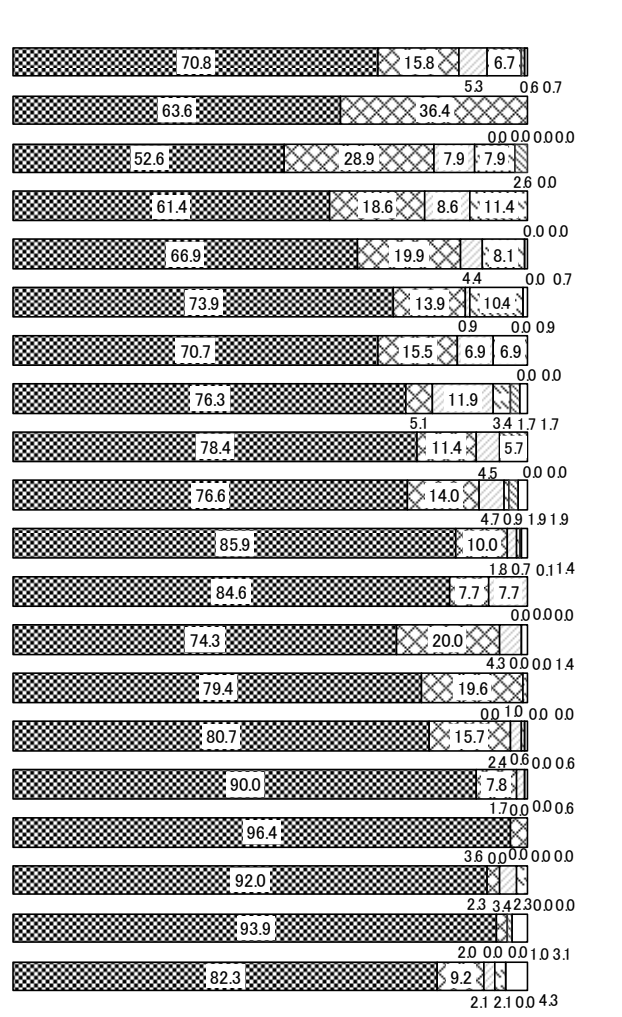
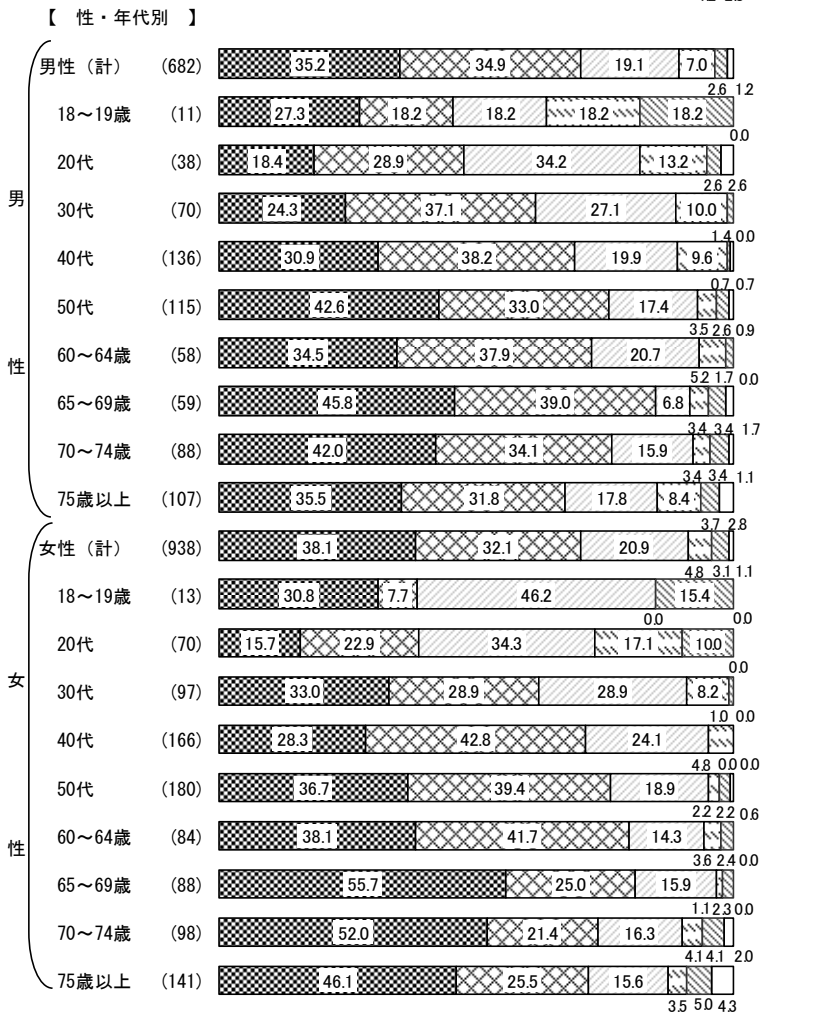
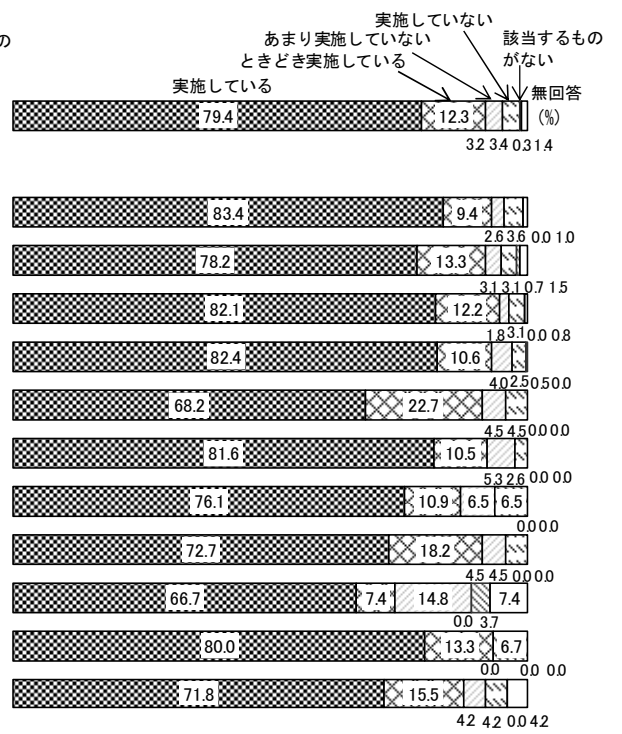
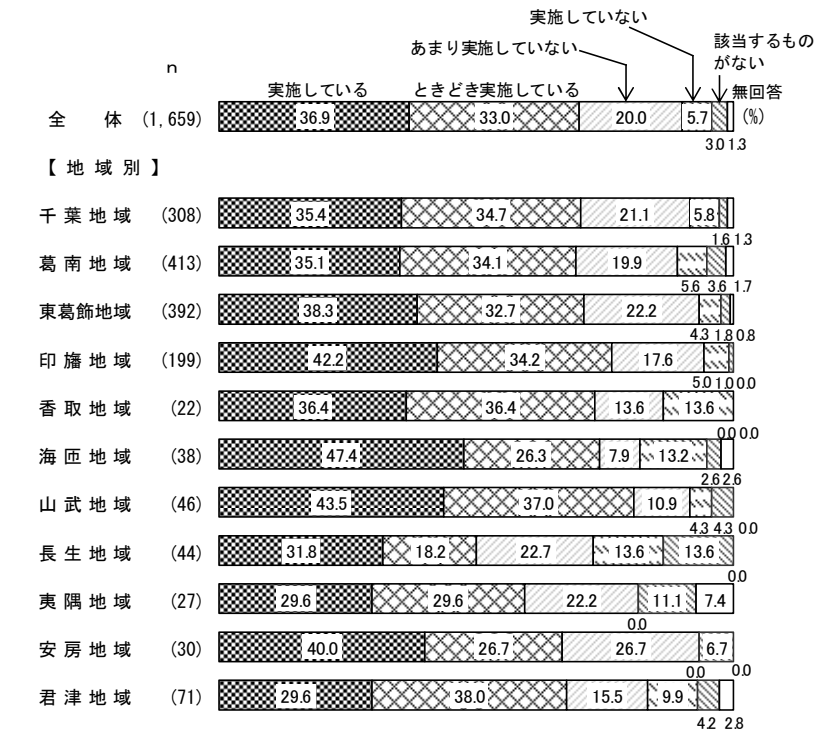
(ア) 節電に努めている

(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



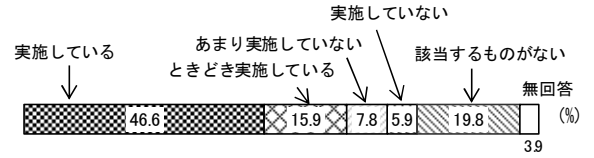
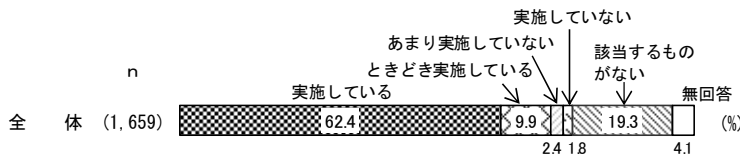
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ

(エ) マイバッグの利用

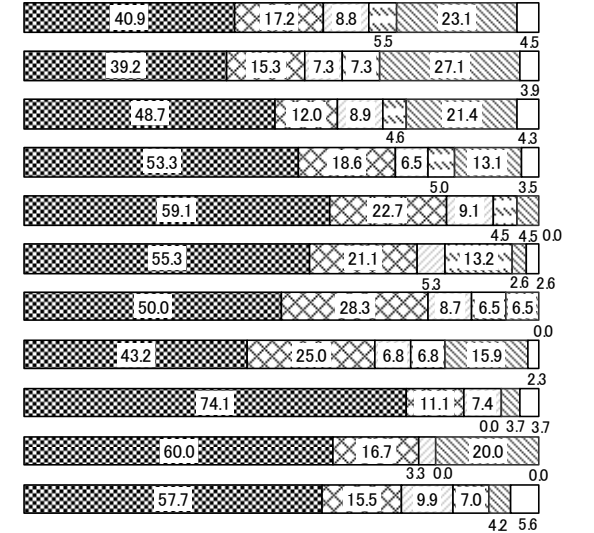
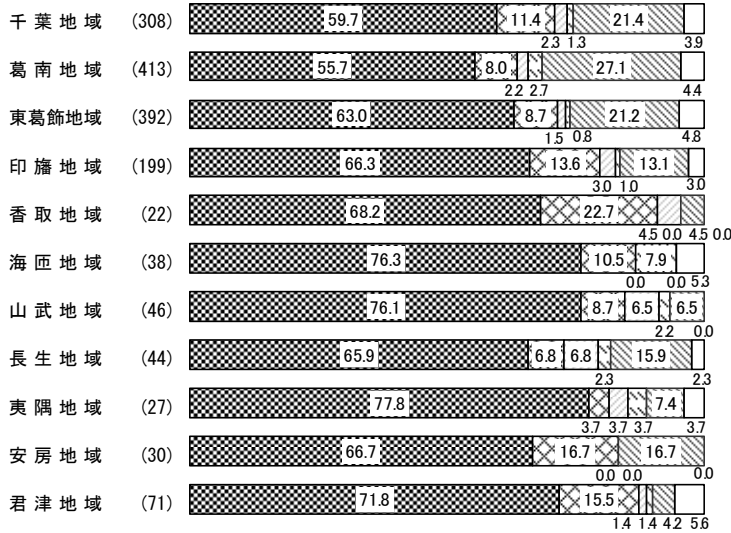


(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない

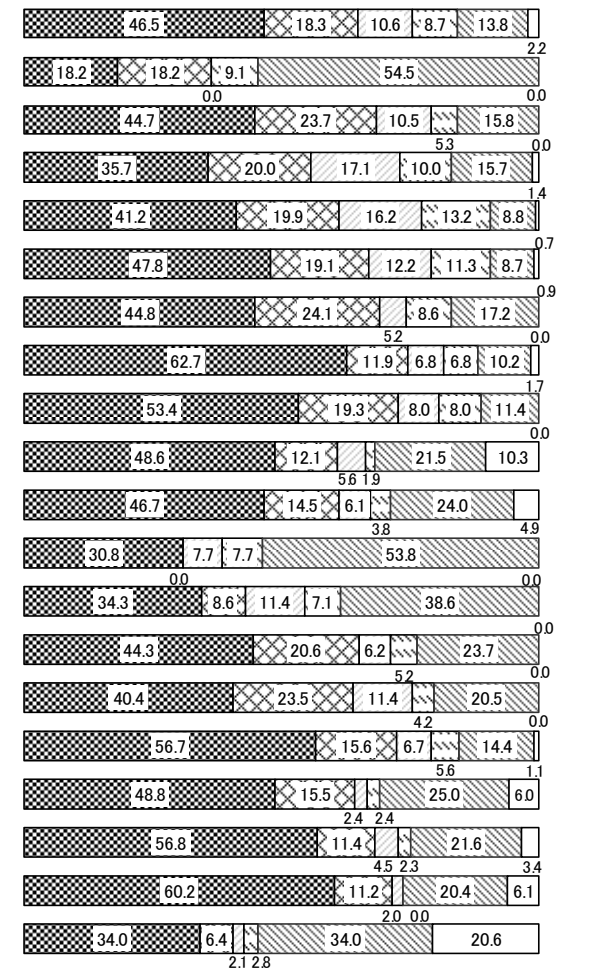
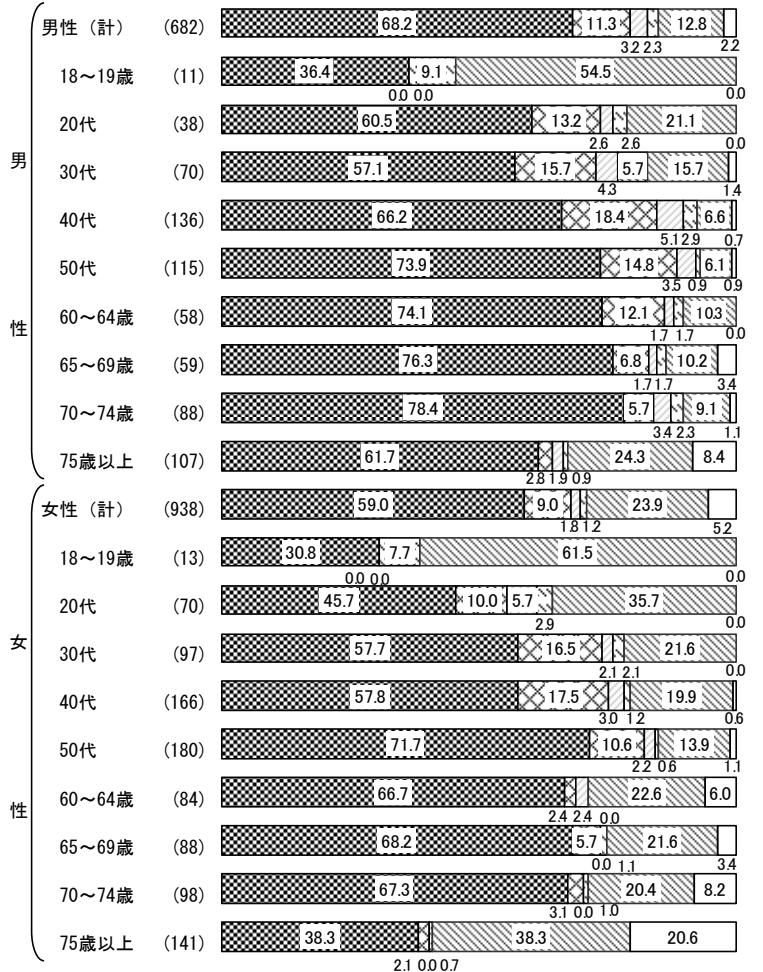
(カ) アイドリング・ストップを心掛けている



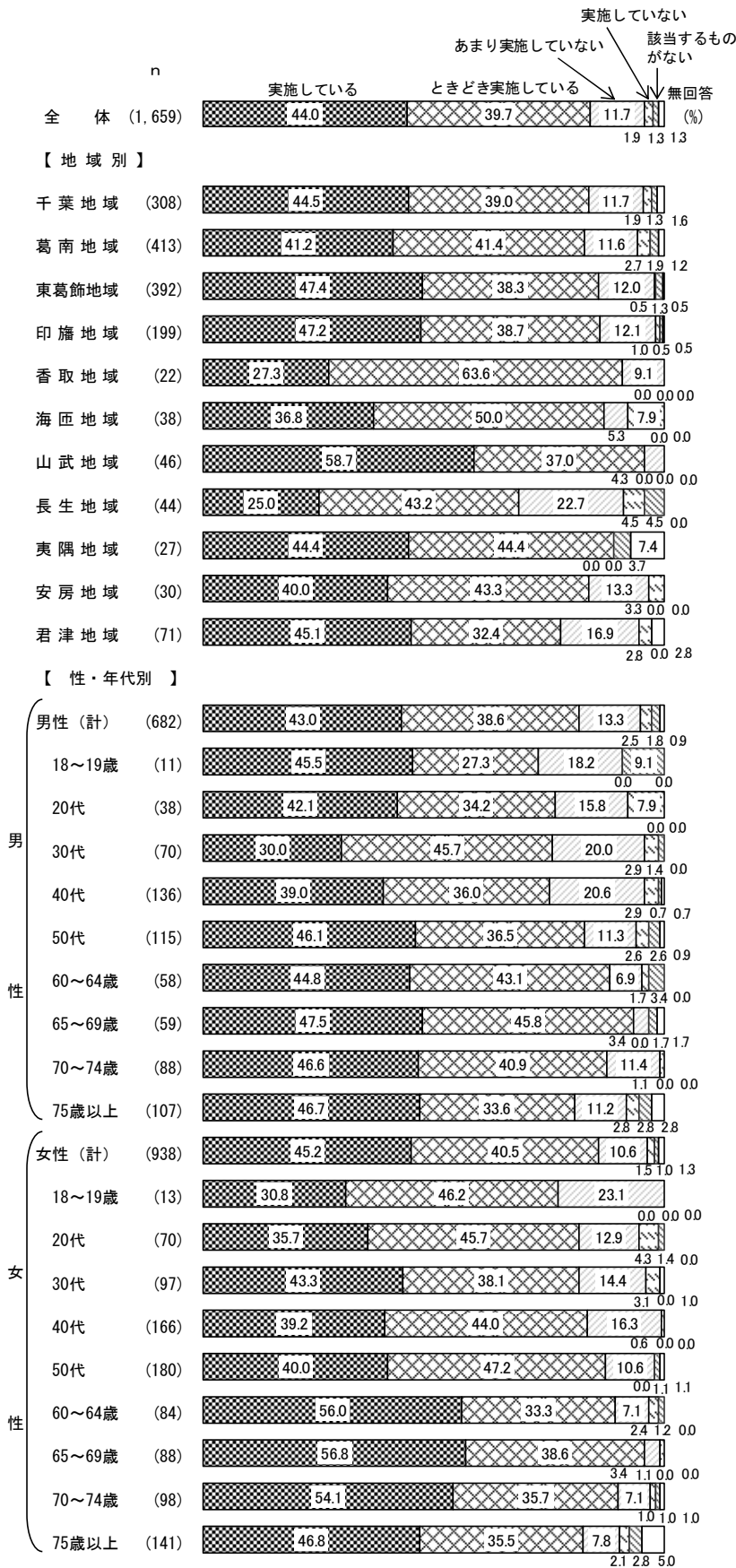
【地域別】



【性・年代別】

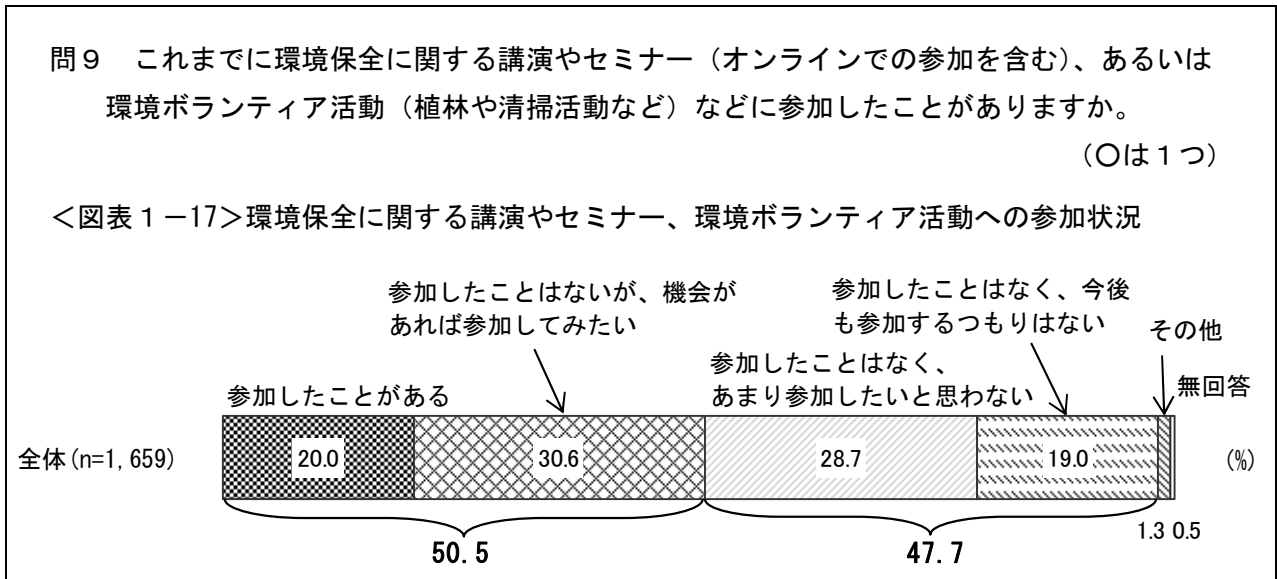


(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる



（9）環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

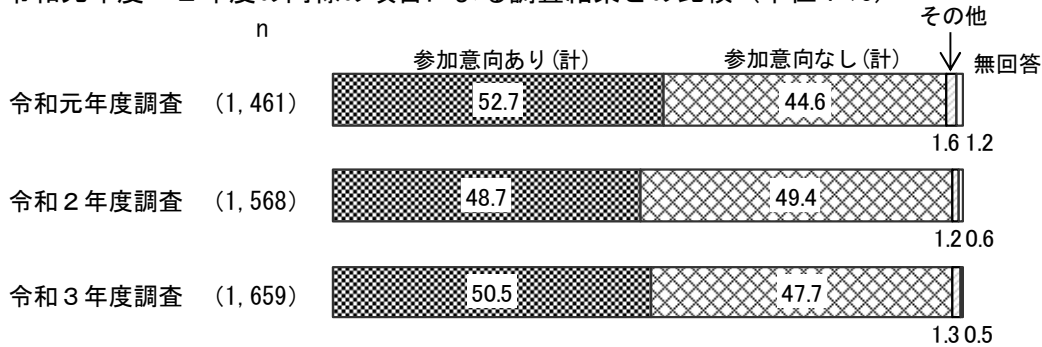
◇『参加意向あり（計）』が5割



環境保全に関する講演やセミナー（オンライン参加含む）、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（20.0%）が2割となっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（30.6%）を合わせた『参加意向あり（計）』（50.5%）が5割となっている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（28.7%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（19.0%）を合わせた『参加意向なし（計）』（47.7%）が約5割となっている。（図表1-17）

【参考】令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



（※）令和元年度、令和2年度調査で、「これまでに環境保全に関する講演やセミナー（オンラインでの参加を含む）、あるいは環境ボランティア活動（植林や清掃活動など）に参加したことがありますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、『参加意向あり（計）』は“安房地域”（70.0%）が7割で高くなっている。

（図表1-18）

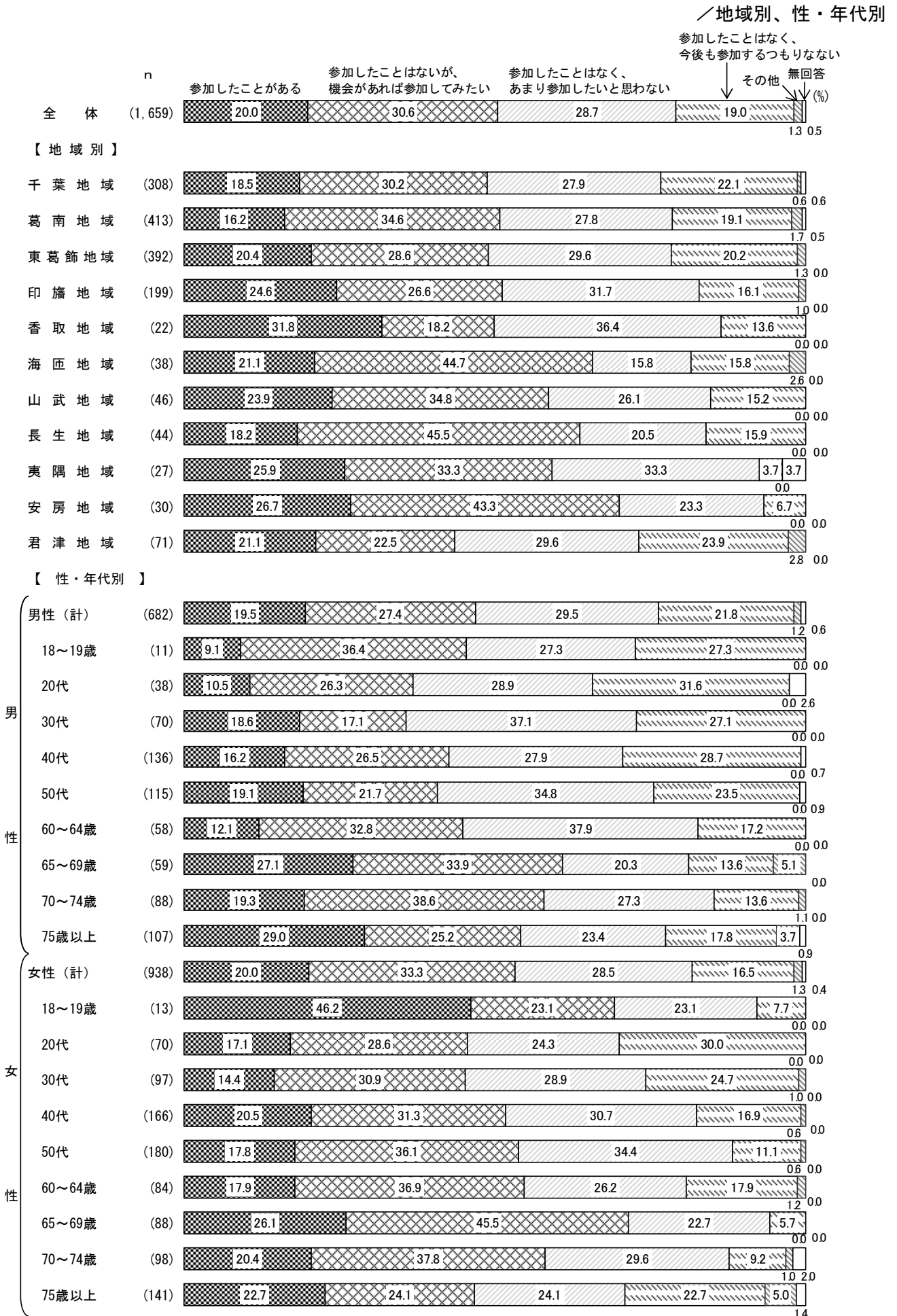
【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は女性の65～69歳（71.6%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『参加意向なし（計）』は男性の30代（64.3%）が6割台半ば、男性の20代（60.5%）が6割、男性の50代（58.3%）が約6割で高くなっている。（図表1-18）

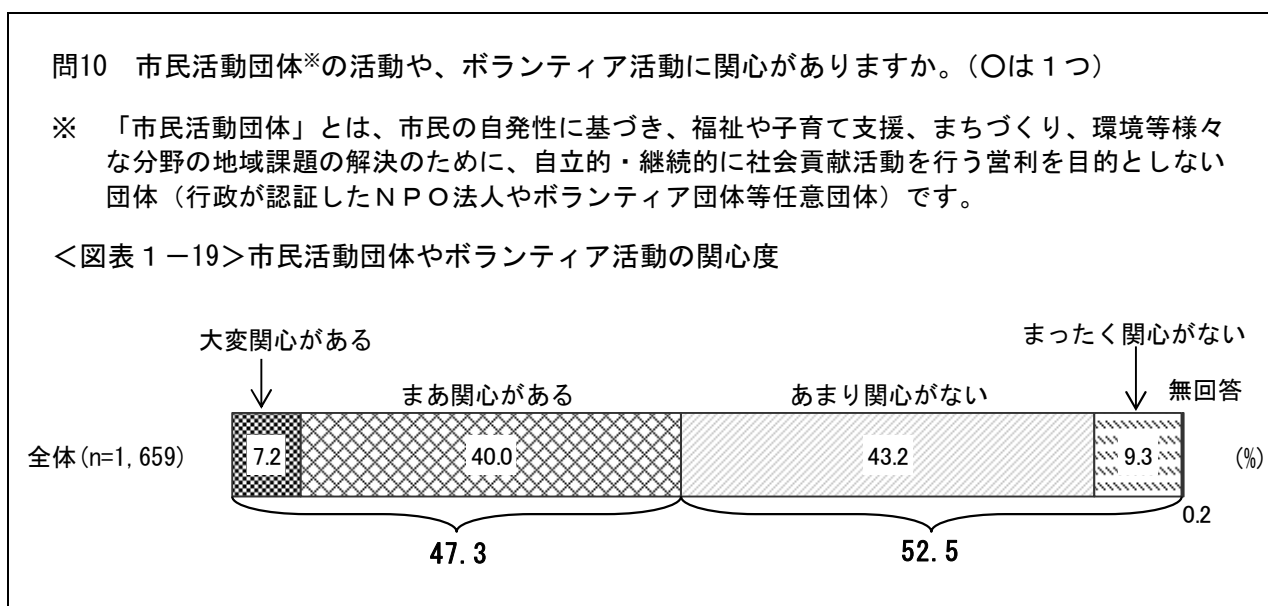


<図表1-18>環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



## (10) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

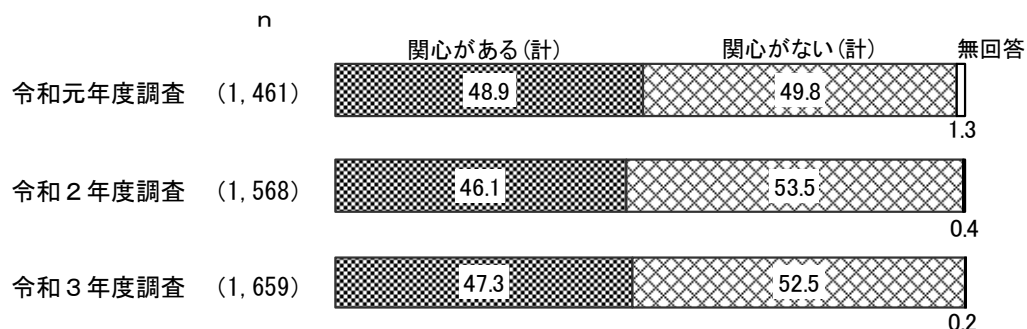
◇『関心がある（計）』が約5割



市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」（7.2%）と「まあ関心がある」（40.0%）を合わせた『関心がある（計）』（47.3%）が約5割となっている。

一方、「あまり関心がない」（43.2%）と「まったく関心がない」（9.3%）を合わせた『関心がない（計）』（52.5%）が5割を超えている。（図表1-19）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



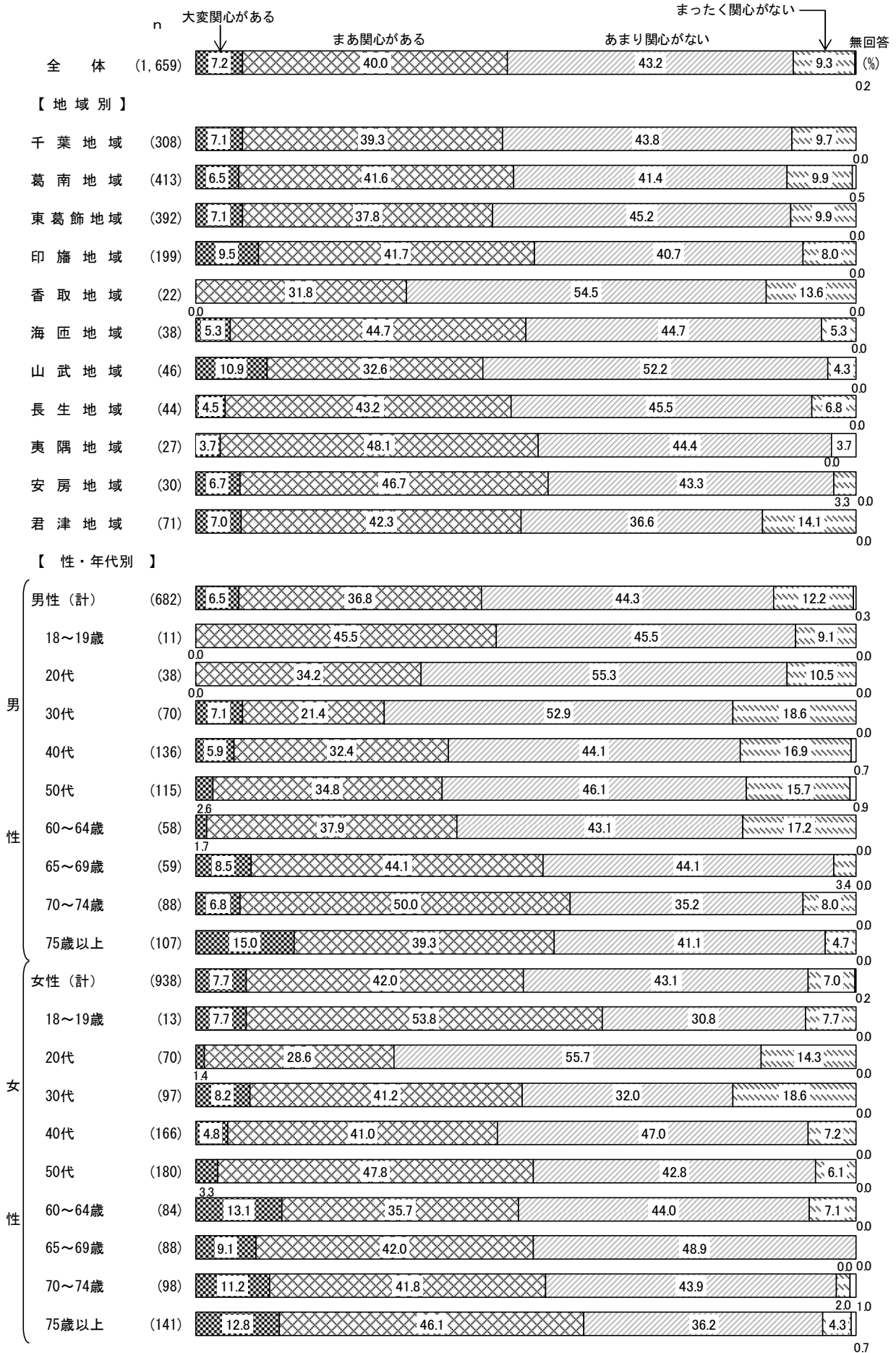
### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-20）

### 【性・年代別】

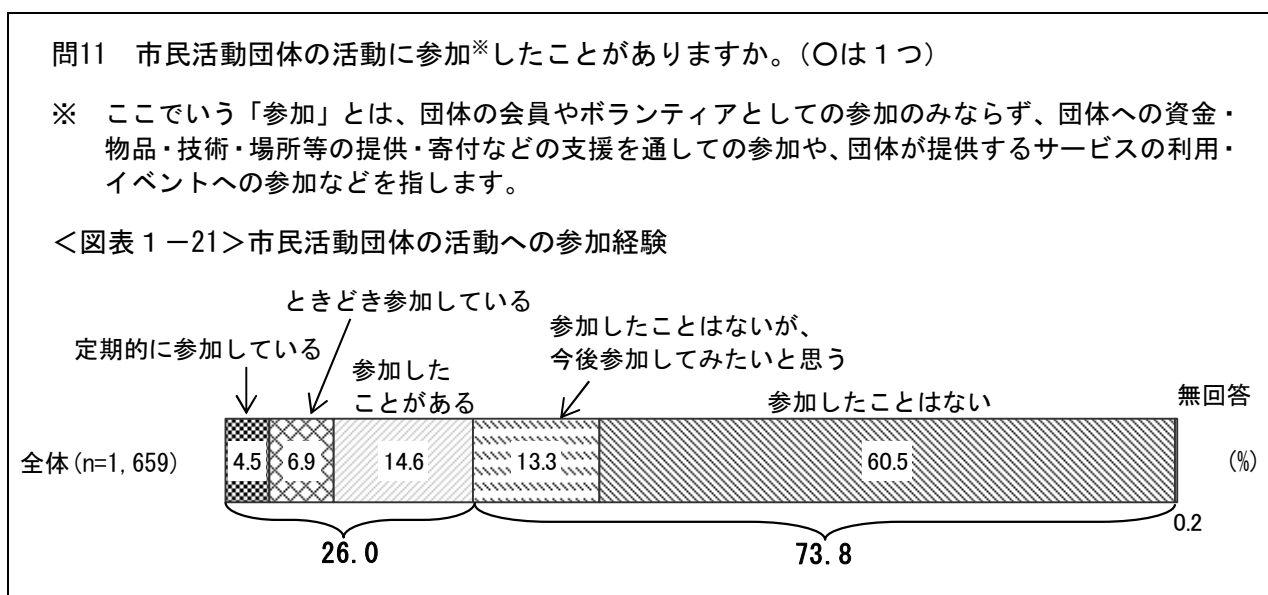
性・年代別にみると、『関心がある（計）』は女性の75歳以上（58.9%）が約6割で高くなっている。一方、『関心がない（計）』は男性の30代（71.4%）が7割を超え、女性の20代（70.0%）が7割で高くなっている。（図表1-20）

<図表1-20>市民活動団体やボランティア活動の関心度／地域別、性・年代別



## (11) 市民活動団体の活動への参加経験

◇『参加したことがある（計）』が2割台半ば

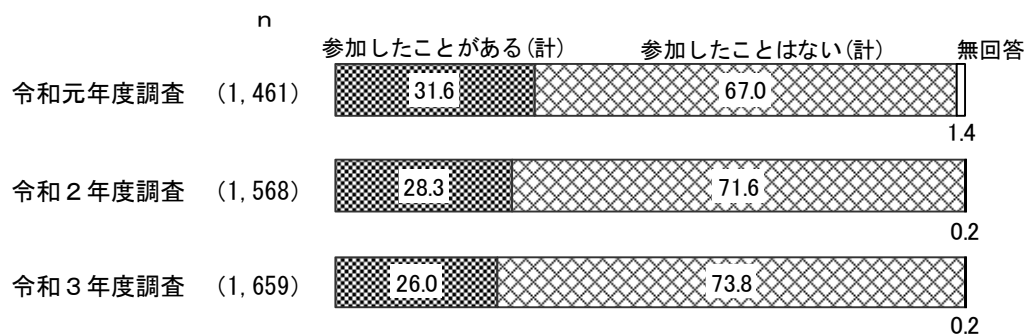


市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（4.5%）、「ときどき参加している」（6.9%）、「参加したことがある」（14.6%）の3つを合わせた『参加したことがある（計）』（26.0%）が2割台半ばとなっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（13.3%）と「参加したことはない」（60.5%）を合わせた『参加したことはない（計）』（73.8%）が7割台半ばとなっている。

（図表1-21）

【参考】令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



### 【地域別】

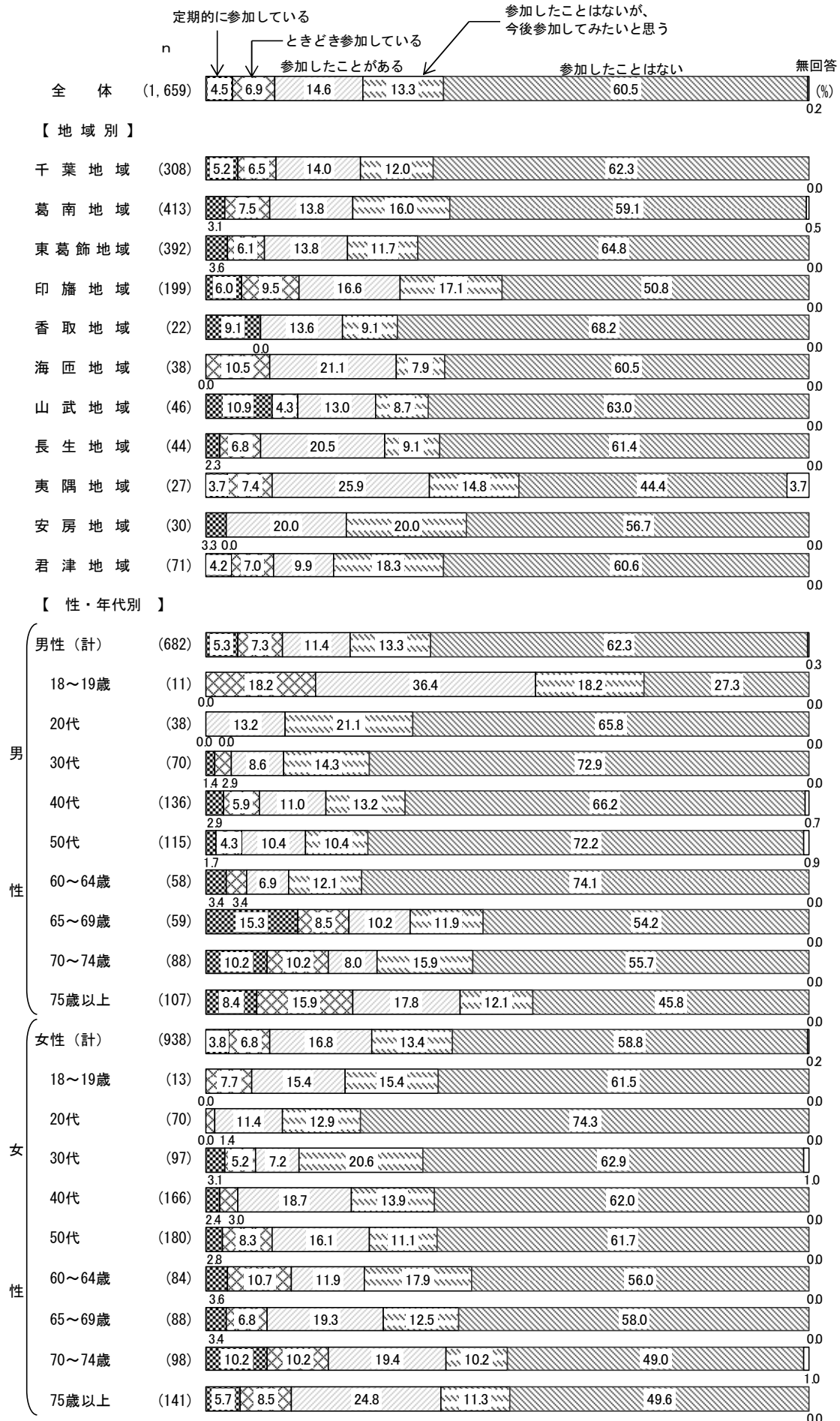
地域別にみると、『参加したことがある（計）』は“夷隅地域”（37.0%）が約4割、“印旛地域”（32.2%）が3割を超えて高くなっている。（図表1-22）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加したことがある（計）』は男性の75歳以上（42.1%）が4割を超え、女性の70～74歳（39.8%）と75歳以上（39.0%）が約4割で高くなっている。

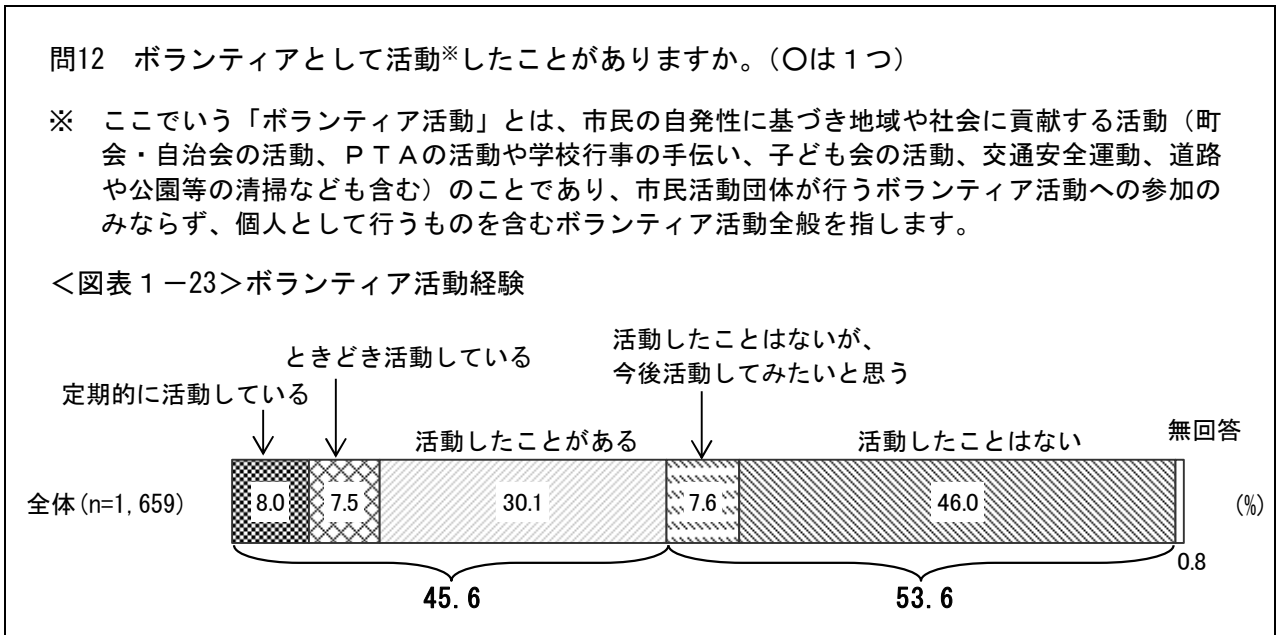
一方、『参加したことはない（計）』は男性の30代と女性の20代（87.1%）が約9割、男性の60～64歳（86.2%）と女性の30代（83.5%）が8割台半ば、男性の50代（82.6%）が8割を超えて高くなっている。（図表1-22）

<図表1-22>市民活動団体の活動への参加経験／地域別、性・年代別



## (12) ボランティア活動経験

◇『活動したことがある（計）』が4割台半ば

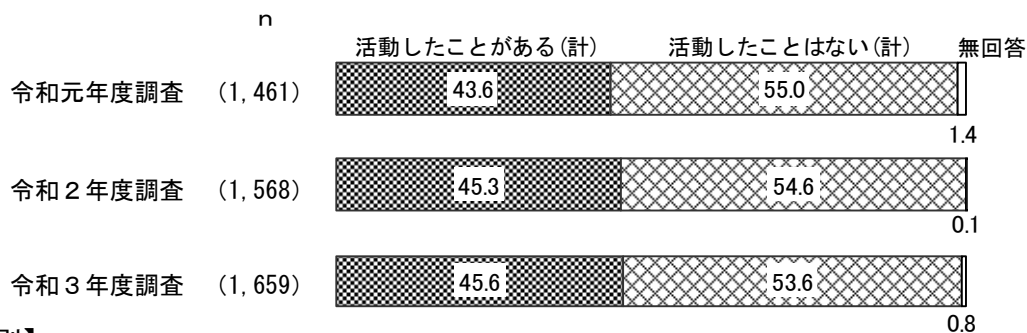


ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的活動している」(8.0%)、「ときどき活動している」(7.5%)、「活動したことがある」(30.1%)の3つを合わせた『活動したことがある（計）』(45.6%)が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(7.6%)と「活動したことはない」(46.0%)を合わせた『活動したことはない（計）』(53.6%)が5割台半ばとなっている。

(図表1-23)

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



### 【地域別】

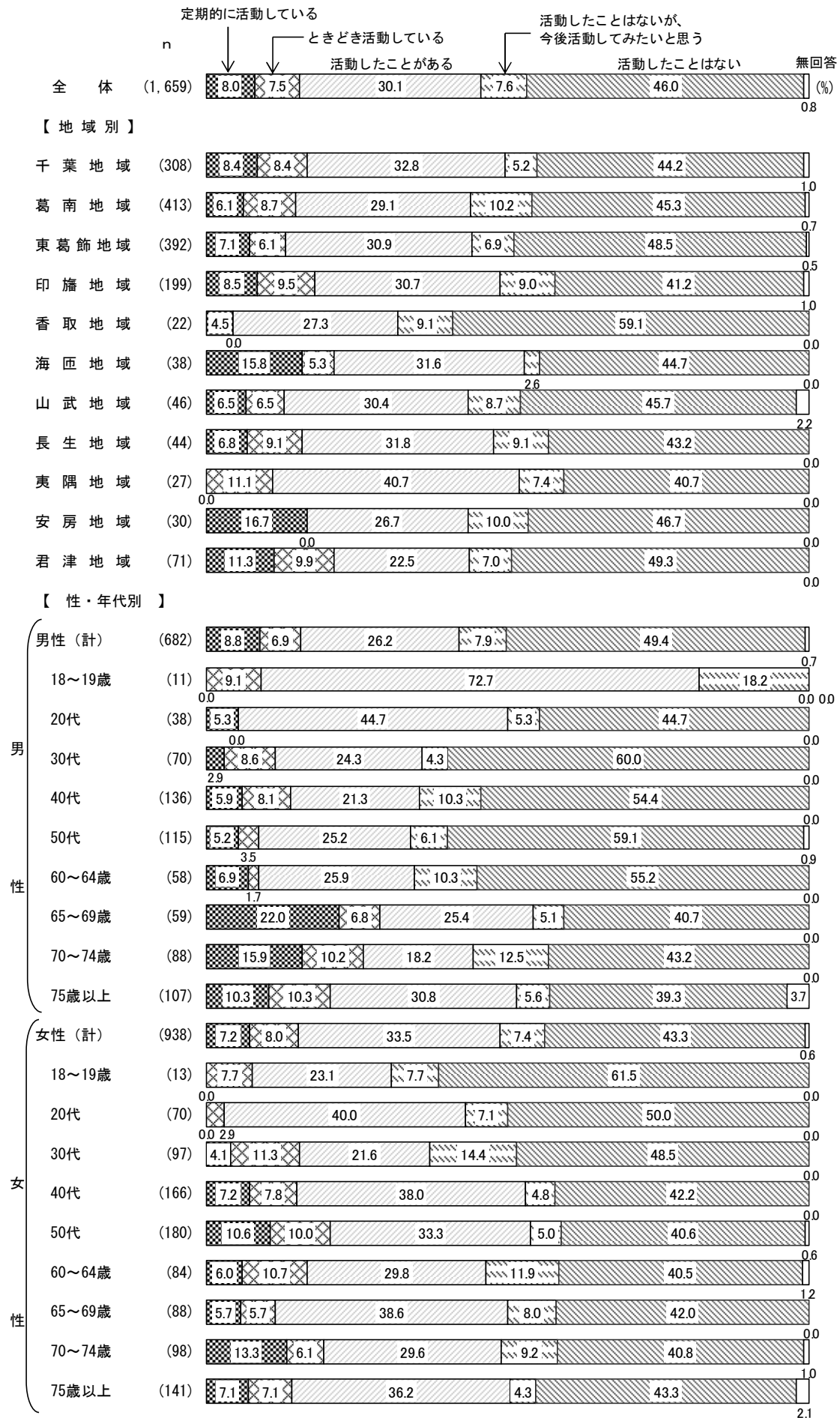
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表1-24)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『活動したことがある（計）』は女性の50代(53.9%)が5割台半ばで高くなっている。

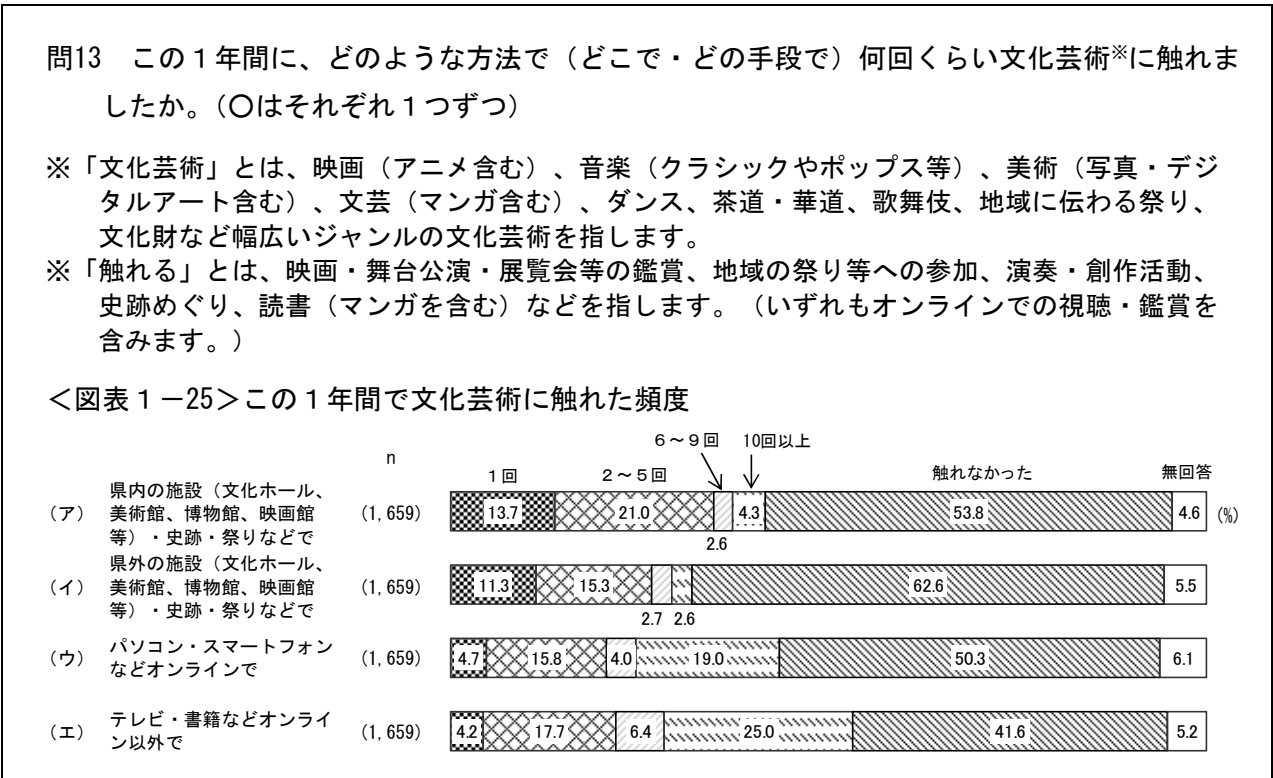
一方、『活動したことはない（計）』は男性の60～64歳(65.5%)、50代(65.2%)、40代(64.7%)と30代(64.3%)が6割台半ばで高くなっている。(図表1-24)

<図表1-24> ボランティア活動経験／地域別、性・年代別



(13) この1年間で文化芸術に触れた頻度

◇『触れたことがある（計）』が最も高いのは<（エ）テレビ・書籍などオンライン以外で>で5割を超える



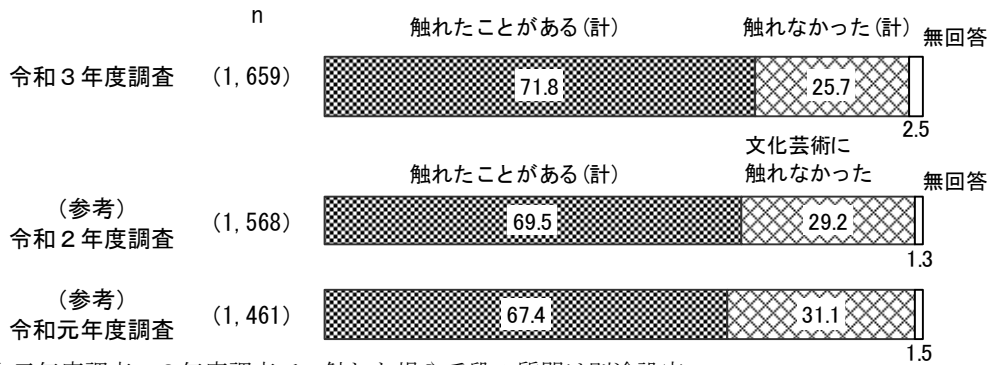
この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」、「年に2～5回（3～6か月に1回程度）」、「年に6～9回（1～2か月に1回程度）」、「年に10回以上（おおよそ月に1回以上）」の4つを合わせた『触れたことがある（計）』が最も高いのは、「(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で」(53.2%)で5割を超え、以下、「(ウ) パソコン・スマートフォンなどオンラインで」(43.6%)が4割台半ば、「(ア) 県内の施設・史跡・祭りなどで」(41.6%)が4割を超えて続く。

一方、「文化芸術に触れなかった」が最も高いのは、「(イ) 県外の施設・史跡・祭りなどで」(62.6%)で6割を超え、以下、「(ア) 県内の施設・史跡・祭りなどで」(53.8%)が5割台半ば、「(ウ) パソコン・スマートフォンなどオンラインで」(50.3%)が5割と続く。(図表1-25)

(ア)～(エ)のいずれかを通じてこの1年間で文化芸術に触れた県民の割合は71.8%となった。  
 ((ア)～(エ)のいずれかで文化芸術に『触れたことがある（計）』と回答した方の割合)



〔参考〕令和元年度・2年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：％）



(※) 令和元年度調査・2年度調査で、触れた場や手段の質問は別途設定

(※) 令和元年度調査で、「あなたは、県内の施設などでこの1年間に何回くらい文化芸術に触れましたか。(〇は1つ)」と質問した結果を参考に示した。

また、令和元年度・2年度にそれぞれ「文化芸術」の説明を変更した。

令和2年度の説明は以下のとおりである。

「ここでいう「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。「触れる」とは映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞（オンラインでの鑑賞を含む）、地域の祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書などを指します。」

令和元年度の説明は以下のとおりである。

「ここでいう「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。「触れる」とは映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞、祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書などを指します。」

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 県内の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は“葛南地域”(44.8%)が4割台半ばで高くなっている。

一方、「触れなかった」は“山武地域”(69.6%)が約7割で高くなっている。

「(イ) 県外の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は“葛南地域”(38.3%)が約4割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は“長生地域”(84.1%)が8割台半ば、“山武地域”(80.4%)が8割で高くなっている。

「(ウ) パソコン・スマートフォンなどオンラインで」の『触れたことがある(計)』は“印旛地域”(50.3%)が5割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は“海匝地域”(65.8%)が6割台半ばで高くなっている。

「(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で」の『触れたことがある(計)』は“君津地域”(60.6%)が6割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は“香取地域”(59.1%)が約6割で高くなっている。(図表1-26)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 県内の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は女性の20代(57.1%)が約6割、女性の30代(51.5%)が5割を超えて高くなっている。

一方、「触れなかった」は男性の60～64歳(74.1%)が7割台半ば、女性の60～64歳(65.5%)が

6割台半ばで高くなっている。

「(イ) 県外の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は女性の20代(55.7%)が5割台半ば、女性の30代(47.4%)が約5割、男性の40代(40.4%)が4割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は男性の60～64歳(70.7%)と女性の60～64歳(70.2%)が7割で高くなっている。

「(ウ) パソコン・スマートフォンなどオンラインで」の『触れたことがある(計)』は女性の20代(75.7%)と男性の20代(73.7%)が7割台半ば、女性の30代(66.0%)が6割台半ば、男性の30代(60.0%)が6割、女性の40代(59.6%)が約6割、男性の40代(53.7%)が5割台半ば、女性の50代(52.2%)が5割を超えて高くなっている。

一方、「触れなかった」は女性の70～74歳(72.4%)と65～69歳(71.6%)が7割を超え、女性の75歳以上(66.7%)と男性の75歳以上(64.5%)が6割台半ばで高くなっている。

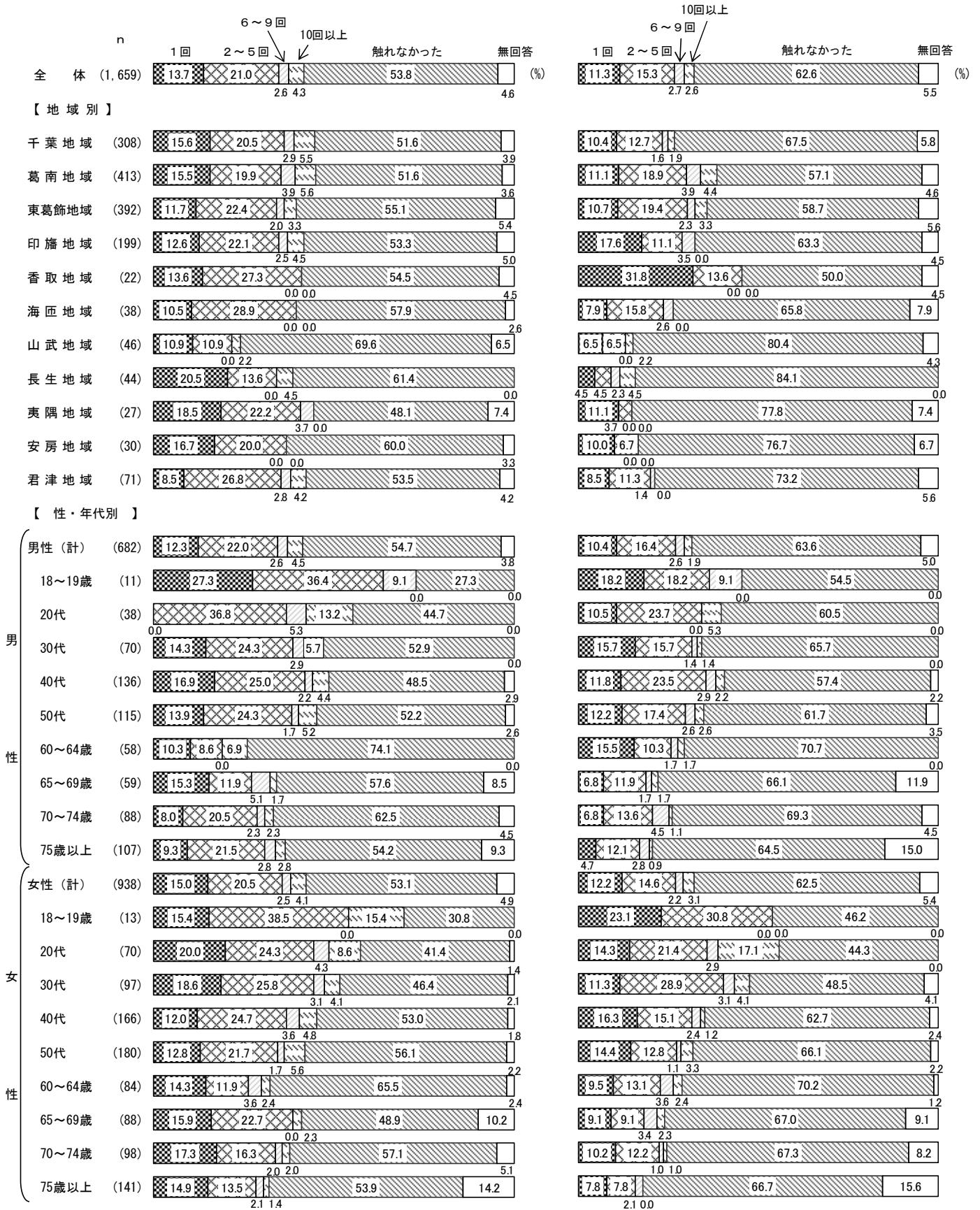
「(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で」の『触れたことがある(計)』は男性の20代(73.7%)が7割台半ば、女性の20代(67.1%)と40代(65.1%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、「触れなかった」は男性の75歳以上(50.5%)が5割、男性の65～69歳(49.2%)と70～74歳(48.9%)と女性の75歳以上(48.2%)が約5割で高くなっている。(図表1-26)

<図表1-26>この1年間で文化芸術に触れた頻度／地域別、性・年代別

(ア) 県内の施設（文化ホール、美術館、博物館、映画館等）・史跡・祭りなどで

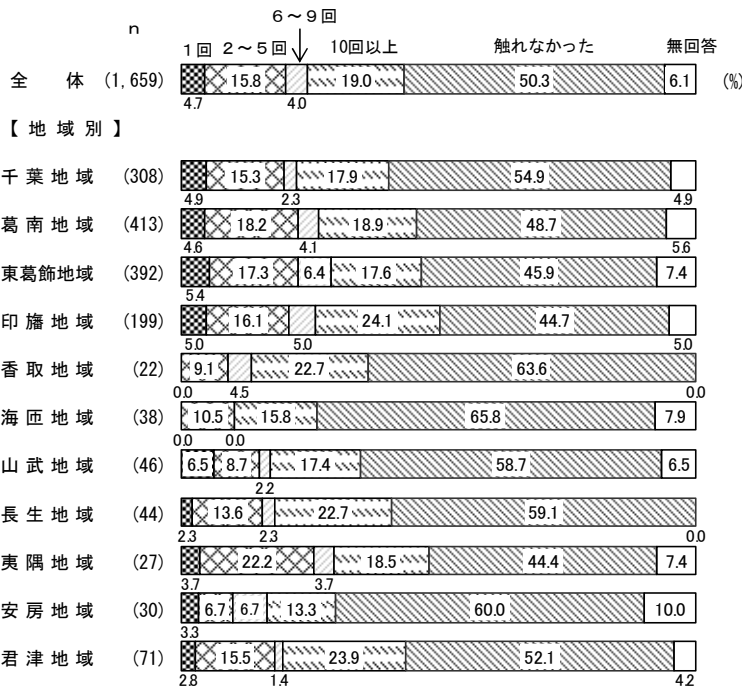
(イ) 県外の施設（文化ホール、美術館、博物館、映画館等）・史跡・祭りなどで



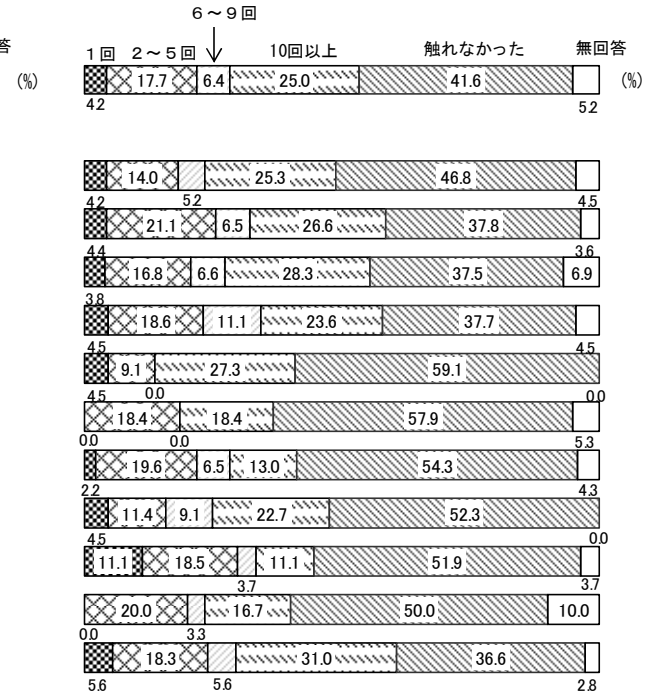
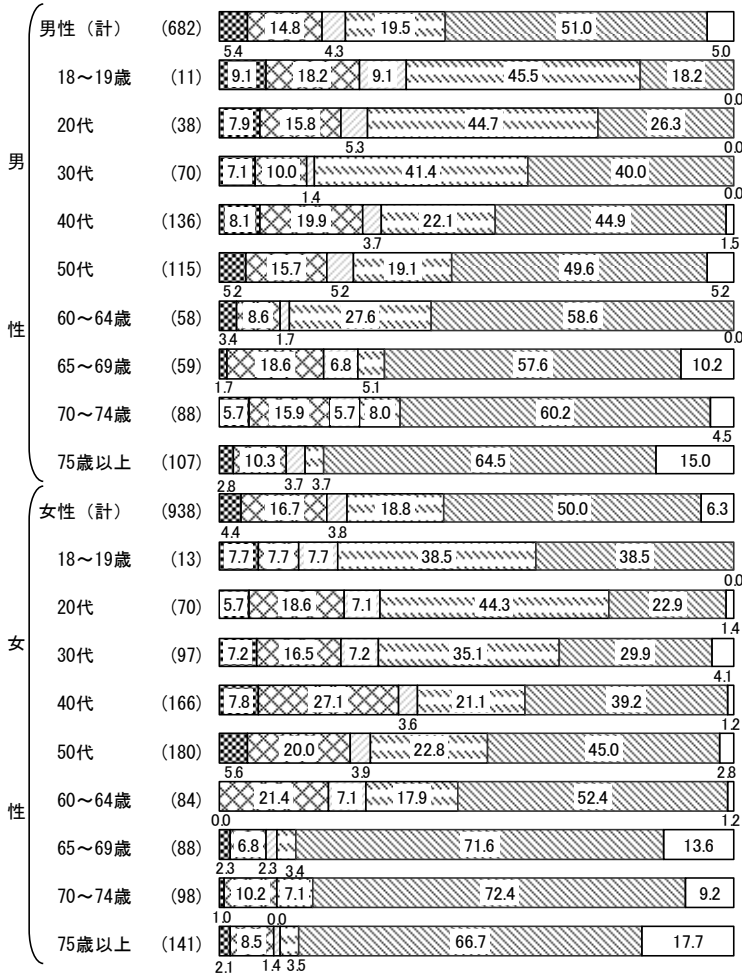
第62回県政に関する世論調査（R3年度）

(ウ) パソコン・スマートフォンなど  
オンラインで

(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で



【 性・年代別 】



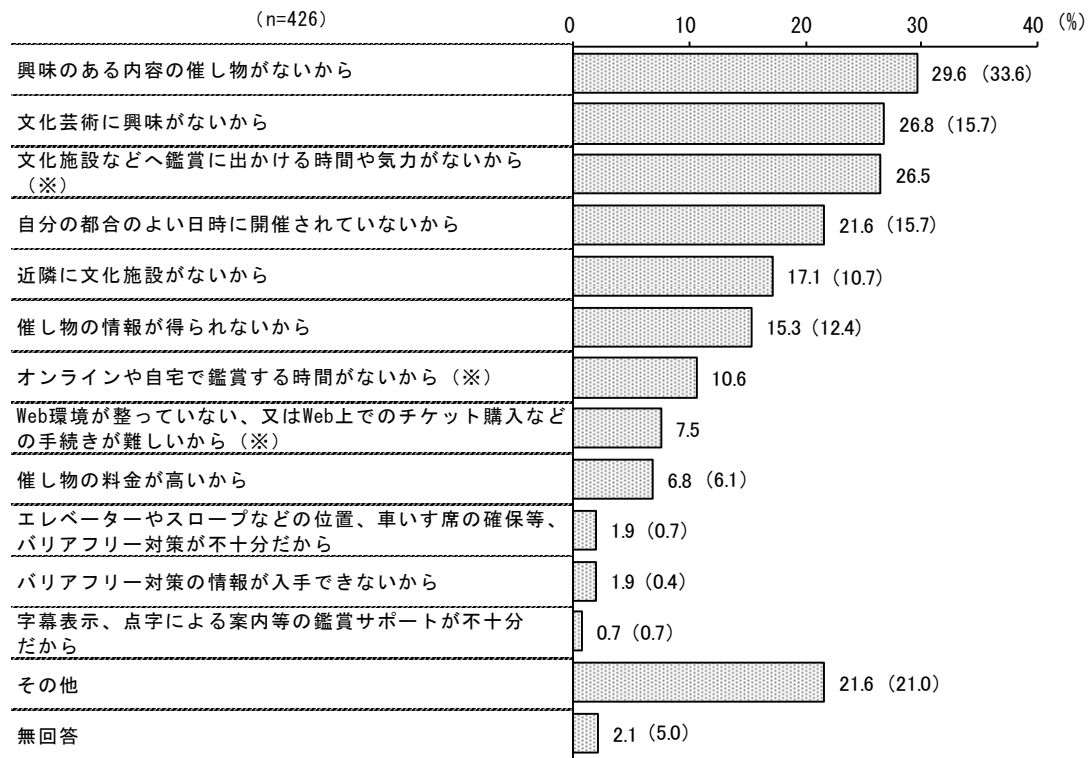
(13-1) 文化芸術に触れなかった理由

◇「興味のある内容の催し物がないから」が約3割

(問13で「県内の施設」「県外の施設」「パソコン・スマートフォンなどオンラインで」「テレビ・書籍などオンライン以外で」全てに「触れなかった」とお答えの方に)

問13-1 その主な理由は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表1-27>文化芸術に触れなかった理由(複数回答)



注) ( ) の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n = 458

(※) 今回調査からの新規項目

「文化芸術に触れなかった」と回答した426人を対象に、文化芸術に触れなかった理由を聞いたところ、「興味のある内容の催し物がないから」(29.6%)が約3割で最も高く、以下、「文化芸術に興味がないから」(26.8%)、「文化施設などへ鑑賞に出かける時間や気力がないから」(26.5%)、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」(21.6%)が続く。(図表1-27)

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(8ページ「報告書の見方(5)」を参照)

(図表1-28)

[参考] <図表1-28> 文化芸術に触れなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

